

高齢者の暮らしと福祉に関するアンケート調査 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)

結果概要と課題

令和2年8月
北広島町

I 調査の概要

1 調査目的

本町の日常生活圏域における高齢者等の実態や課題を把握し、現計画の取組の評価及び令和3年度から令和5年度までを計画期間とする「第8期北広島町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」策定に資する基礎資料を得ることを目的とするため。

2 調査方法

- (1) 調査地域 北広島町全域
- (2) 調査方法 郵送法
- (3) 調査対象 町内に居住する65歳以上の高齢者から2,050人を無作為抽出
〔内訳〕
 - ①介護保険の認定を受けていない一般高齢者（1,806人）
 - ②介護保険の要支援1・2認定者（149人）
 - ③総合事業対象者（95人）
- (4) 回収数 1,505人（73.4%）（有効回収数 1,499人（73.1%））
- (5) 調査時期 令和2年2月10日～令和2年2月28日（3月10日回収分まで含む）

3 報告書の見方

- 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（%）で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- 2つ以上の回答（複数回答）を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- グラフ中の「n」は質問に対する回答数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 本調査は、年齢別の分析精度を高めるため、人口比率の小さい年齢層の抽出率を高くして対象者の抽出を行った。そのため、年齢別回答数の母集団に占める割合の差を調整するために、回収数の母集団比率を基準とした係数を乗じ、母集団の日常生活圏域比率に補正した規正標本数をもって集計を行っている。

II 調査結果

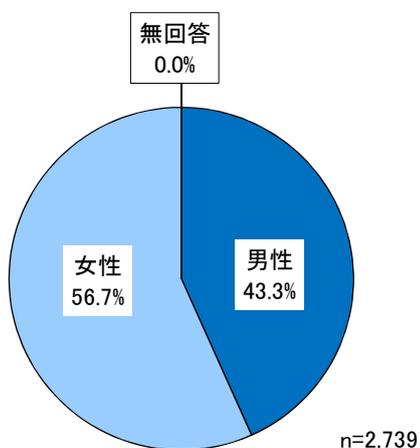
1 回答者の属性

(1) 対象者区分

	回答数	規正標本数	割合
一般高齢者	1,319	2,440	89.1%
要支援1・2高齢者	97	176	6.4%
総合事業対象者	83	123	4.5%
無回答	-	-	-

(2) 性別

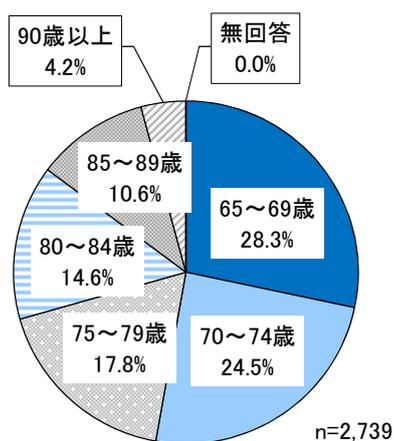
- 回答者の性別は男性が43.3%、女性が56.7%となっている。



	回答数	規正標本数	割合
男性	638	1,186	43.3%
女性	861	1,552	56.7%
無回答	-	-	-

(3) 年齢

- 年齢は、前期高齢者が52.8%、後期高齢者が47.2%となっている。



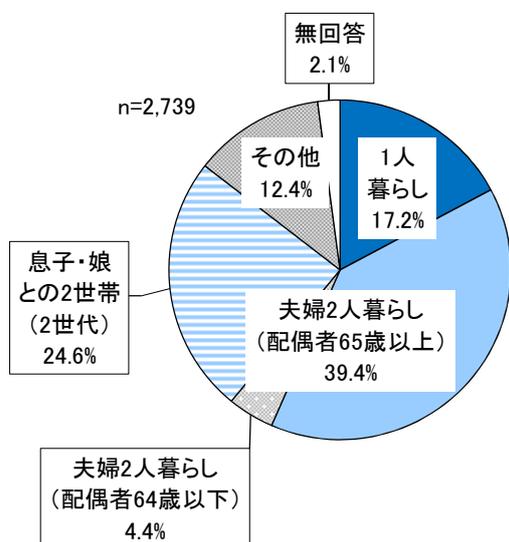
	回答数	規正標本数	割合
65~69歳	196	774	28.3%
70~74歳	354	671	24.5%
75~79歳	380	487	17.8%
80~84歳	387	400	14.6%
85~89歳	146	291	10.6%
90歳以上	36	115	4.2%
無回答	-	-	-

(4) 日常生活圏域

	回答数	規正標本数	割合
芸北圏域	221	405	14.8%
大朝圏域	239	450	16.4%
千代田圏域	677	1,252	45.7%
豊平圏域	362	632	23.1%
無回答	-	-	-

(5) 家族構成

- 家族構成は、1人暮らしの高齢者が17.2%、夫婦2人暮らしの高齢者が43.8%、息子・娘との2世帯（2世代）の高齢者が24.6%であり、夫婦2人暮らしは4割を超えている。



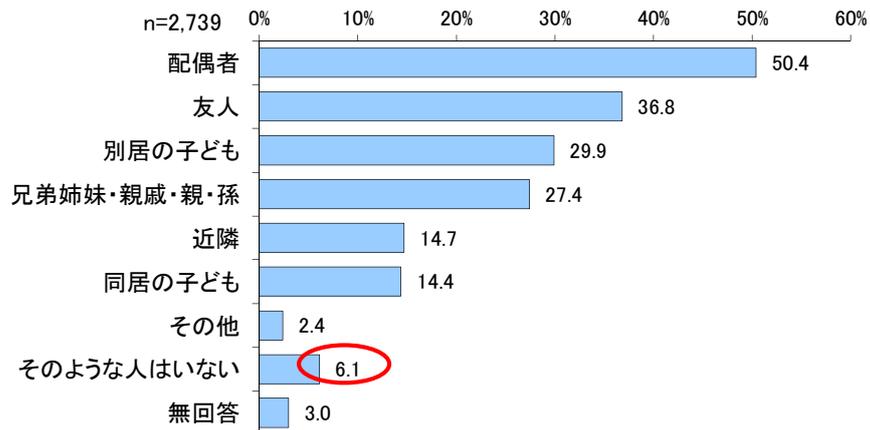
	回答数	規正標本数	割合
1人暮らし	288	471	17.2%
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	599	1,080	39.4%
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	44	119	4.4%
息子・娘との2世帯 (2世代)	363	672	24.6%
その他	171	339	12.4%
無回答	34	57	2.1%

2 相談・助け合い

(1) 周囲の人との助け合いの状況

- 回答者の心配事や愚痴を聞いてくれる人は、家族・親戚や友人の割合が高くなっているが、「そのような人がいない」と回答した人が6.1%となっている。
- 特に、男性1人暮らしでは21.8%と高くなっている。

【心配事や愚痴を聞いてくれる人】

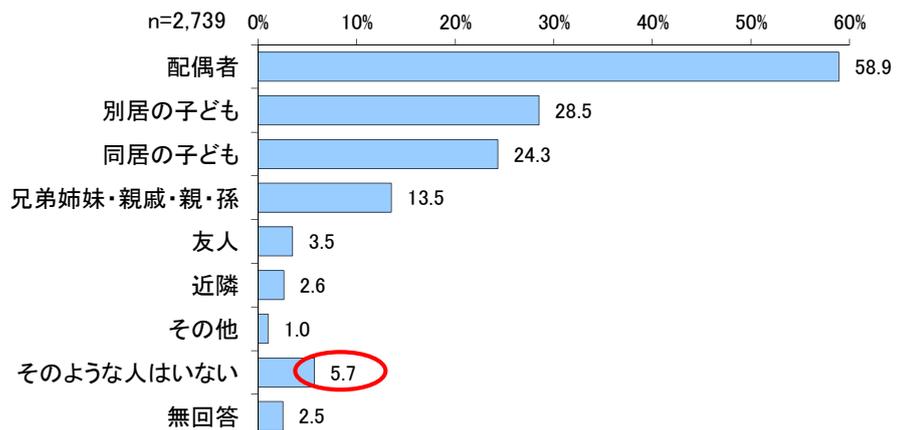


【心配事や愚痴を聞いてくれる人（性・家族構成別）】

	回答数	配偶者	友人	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	同居の子ども	その他	そのような人はいない	無回答
男性 1人暮らし	129	-	27.0%	19.0%	37.4%	11.5%	1.4%	2.0%	21.8%	4.2%
夫婦2人暮らし	614	82.0%	23.8%	18.9%	17.2%	11.5%	1.9%	1.6%	5.5%	3.4%
その他	417	63.3%	27.2%	14.4%	17.5%	10.2%	25.6%	1.8%	8.0%	2.0%
女性 1人暮らし	342	1.5%	50.3%	50.8%	26.0%	16.1%	1.1%	2.8%	5.9%	3.9%
夫婦2人暮らし	585	66.8%	48.3%	41.0%	38.7%	14.3%	3.0%	1.6%	2.4%	2.9%
その他	595	34.1%	40.8%	32.7%	33.1%	21.5%	40.0%	3.9%	4.9%	2.3%

- 回答者が寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、家族・親戚の割合が高くなっているが、「そのような人がいない」と回答した人が5.7%となっている。
- 特に、男性1人暮らしでは31.1%と高くなっている。

【看病や世話をしてくれる人】



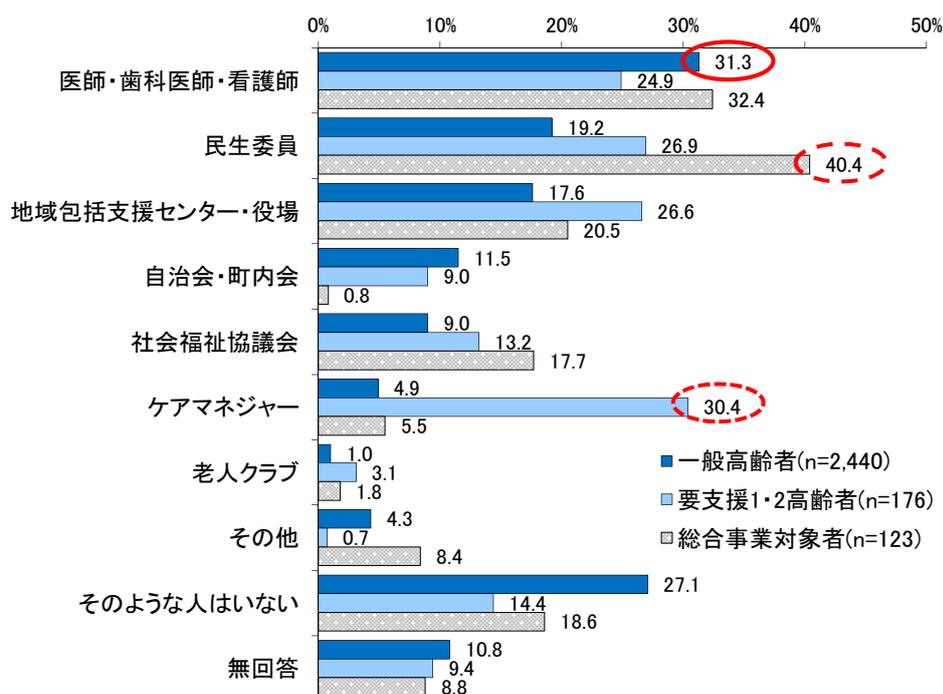
【看病や世話をしてくれる人（性・家族構成別）】

	回答数	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近隣	その他	そのような人はいない	無回答
男性 1人暮らし	129	1.5%	30.9%	2.3%	28.1%	6.5%	3.1%	1.4%	31.1%	5.0%
夫婦2人暮らし	614	91.2%	22.3%	3.7%	8.0%	1.3%	1.9%	-	2.6%	3.1%
その他	417	72.4%	13.1%	43.7%	12.8%	0.3%	0.2%	-	3.6%	0.6%
女性 1人暮らし	342	3.9%	62.9%	1.5%	16.0%	11.2%	5.7%	4.4%	12.7%	4.1%
夫婦2人暮らし	585	80.7%	29.5%	5.0%	13.1%	5.2%	3.6%	0.8%	2.8%	3.0%
その他	595	40.0%	25.1%	67.6%	14.4%	1.5%	2.1%	1.0%	2.9%	1.4%

(2) 相談の状況

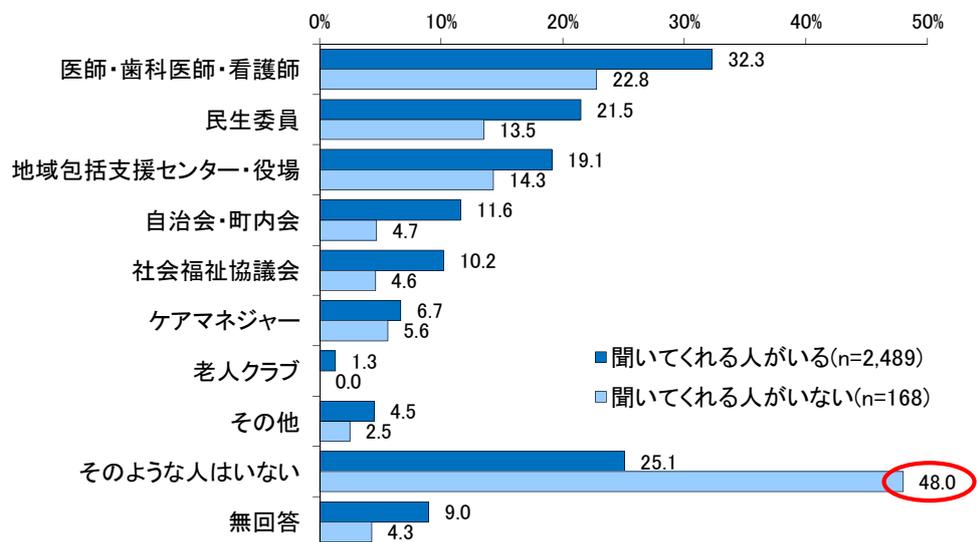
- 家族や友人・知人以外で相談する相手は、一般高齢者では「医師・歯科医師・看護師」が最も高く 31.3%であり、要支援1・2の高齢者では「ケアマネジャー」が最も高く 30.4%、総合事業対象者では「民生委員」が最も高く 40.4%となっている。

【家族や友人・知人以外の相談相手】



- 自分の心配事や愚痴を「聞いてくれる人がいない」と回答した人のうち、家族や友人・知人以外でも「そのような人はいない」と回答した人の割合が5割に近くなっている。

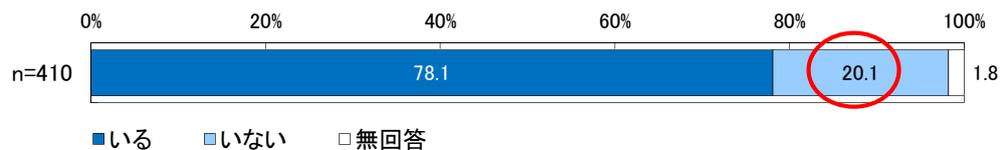
【家族や友人・知人以外の相談相手（心配事や愚痴を聞いてくれる人の有無別）】



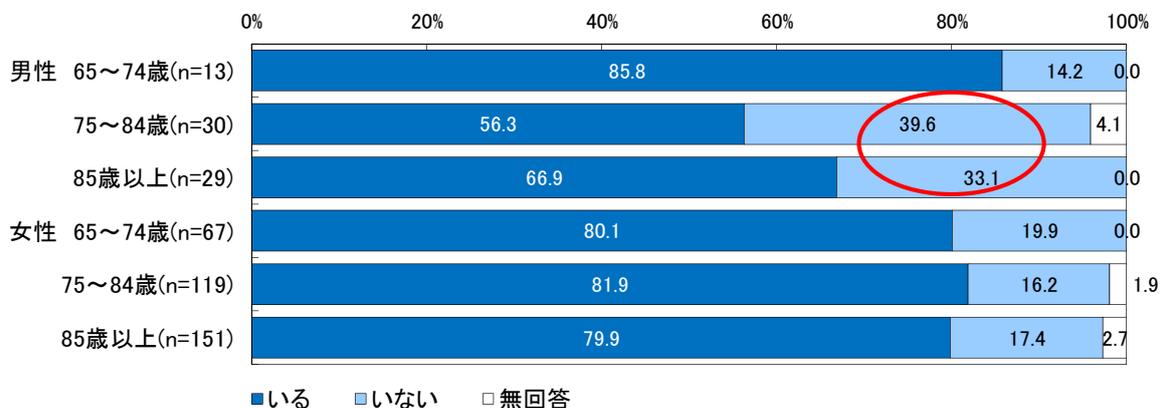
(3) 緊急時の支援

- 災害等の緊急時に1人で避難することができない人（15.0%）のうち支援してくれる人がいない割合は20.1%であり、男性75～84歳、男性85歳以上で3割を超えている。

【緊急時に支援してくれる人の有無】



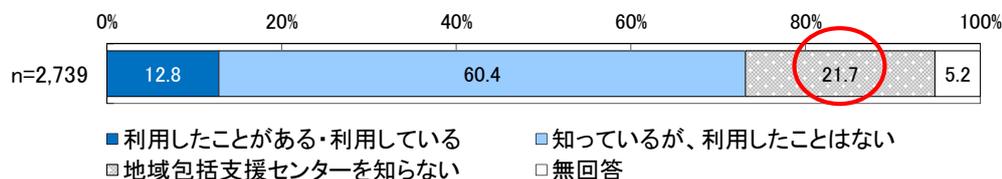
【緊急時に支援してくれる人の有無（性・年齢別）】



(4) 地域包括支援センターの認知度

- ▶ 地域包括支援センターを知らない割合が 21.7%となっている。

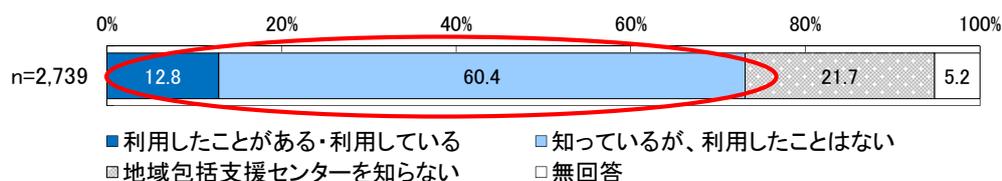
【役場保健課地域包括支援センターの利用状況】



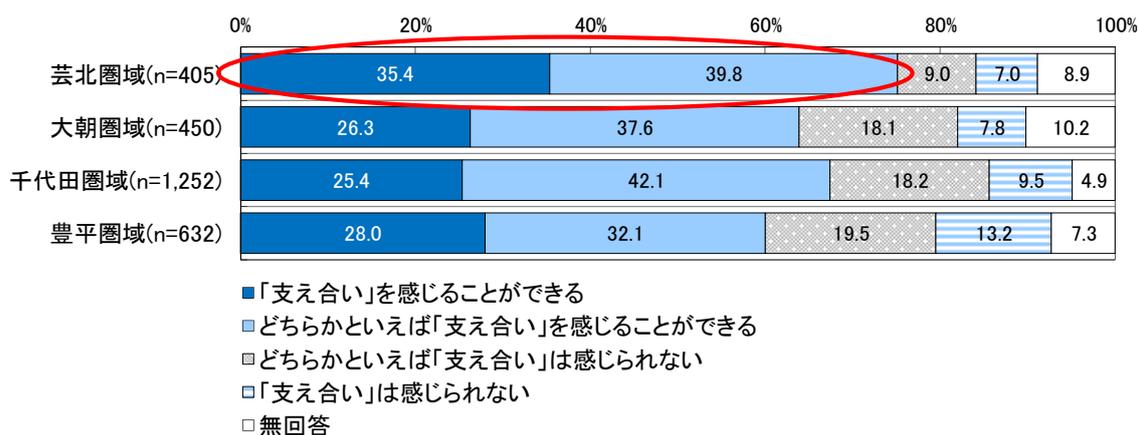
(5) 「地域における支え合い」の感じ方

- ▶ 地域における『「支え合い」を感じることができる』（「支え合い」を感じることができる」+「どちらかといえば「支え合い」を感じることができる）」と回答した人は 66.3%となっている。
- ▶ 日常生活圏域別にみると、『「支え合い」を感じることができる』と回答した人は、芸北圏域で高く、75.7%となっている。

【「地域における支え合い」の感じ方】



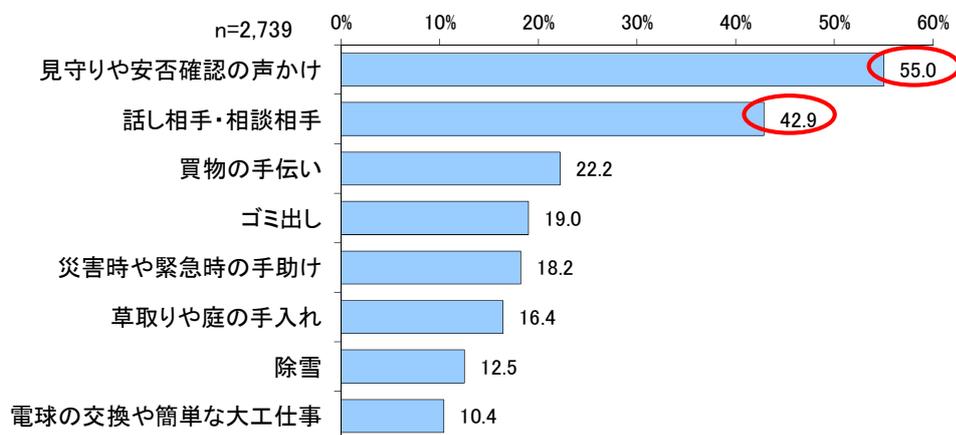
【「地域における支え合い」の感じ方（日常生活圏域別）】



(6) 自分ができると思う手助け

- 近所の困っている人に、自分ができると思う手助けについて、「見守りや安否確認の声かけ」と回答した人の割合が最も高く 55.0%であり、「話し相手・相談相手」が 42.9%で続いている。

【自分ができると思う手助け】



(7) 「地域における支え合い」への考え

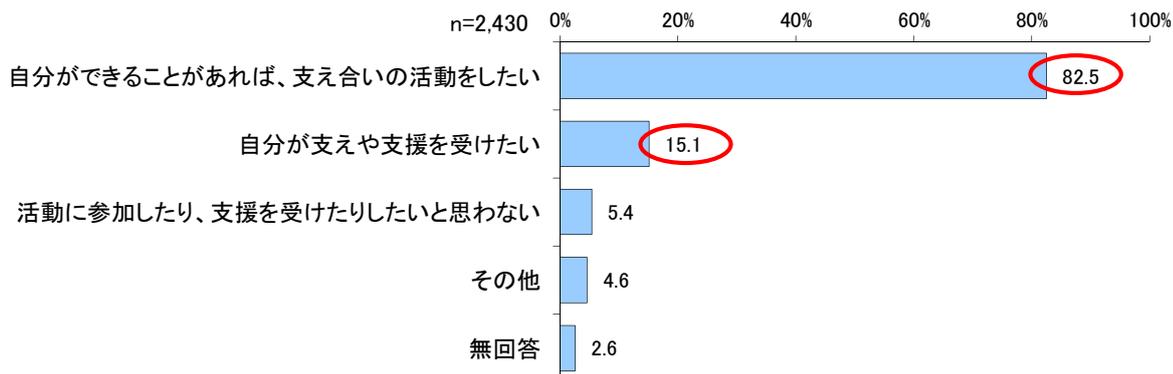
- 「地域における支え合い」への考えについて、「地域の支え合いは必要である」と回答した人の割合が 88.7%となっている。

【「地域における支え合い」への考え】



- 「地域における支え合い」が必要であると回答した人の支え合いへの関わり方の意向について、「自分ができることがあれば、支え合いの活動をしたい」と回答した人の割合が 82.5%、「自分が支えや支援を受けたい」と回答した人の割合が 15.1%となっている。

【「地域における支え合い」への関わり方の意向】



[検討すべき課題]

多くの高齢者が、家族・親戚や友人に話を聞いてもらったり、看病をしてもらったりできると回答しているが、男性1人暮らしでは相談できる人がいない、看病や世話をしてくれる人がいない割合が高くなっているため、そのような状況にある高齢者を把握し、日常的に相談ができる体制や状況に応じて支援につなげることができる体制づくりが重要である。

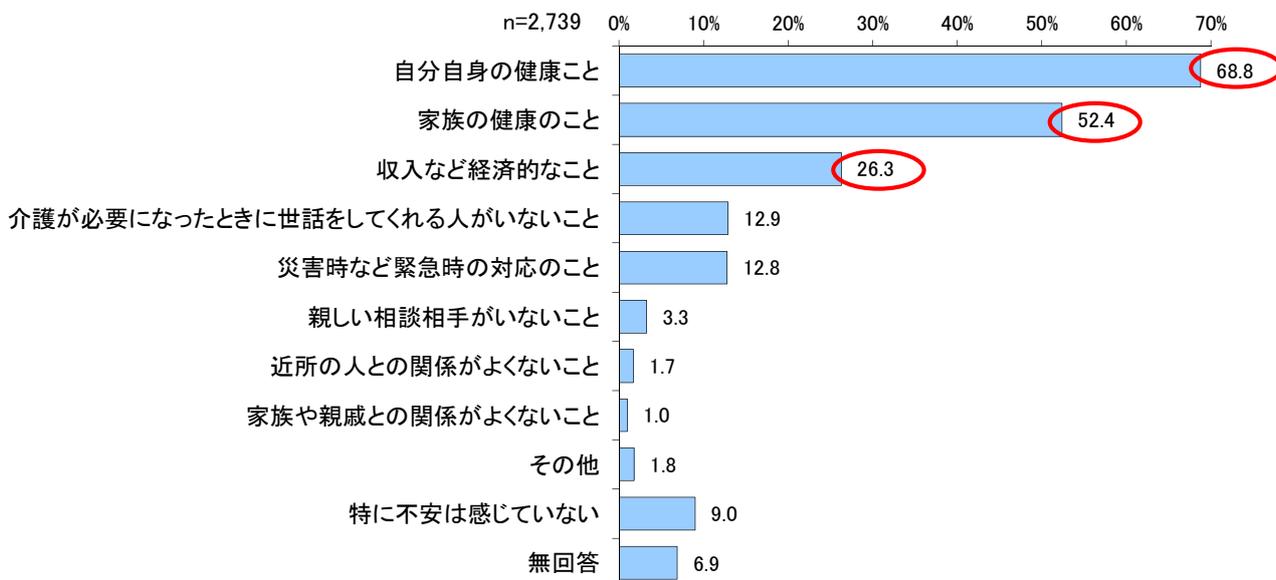
また、地域における支え合いへの関わり方の意向について、「自分ができることがあれば、支え合いの活動をしたい」と回答する割合や、自分ができる手助けを回答する人の割合は高いため、そのような地域の人を活かす仕組みをつくり、関係機関、地域と連携して取り組むことが重要である。

3 在宅生活の継続

(1) 日常生活や将来に対する不安

- 日常生活や将来に対する不安について「自分自身の健康のこと」と回答した人の割合が最も高く 68.8%であり、「家族の健康のこと」、「収入など経済的なこと」が続いている。

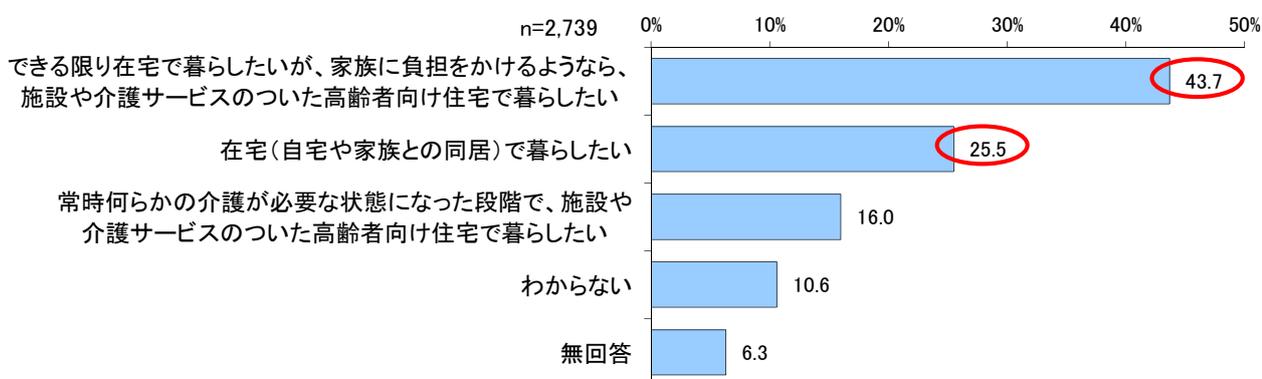
【日常生活や将来に対する不安（対象者区分別）】



(2) 介護が必要になった場合の暮らし方の希望

- 介護が必要になった場合の暮らし方の希望として、「できる限り在宅で暮らしたいが、家族に負担をかけるようなら、施設や介護サービスのついた高齢者向け住宅で暮らしたい」と回答した人の割合が最も高く 43.7%であり、次いで「在宅（自宅や家族との同居）で暮らしたい」が 25.5%となっている。

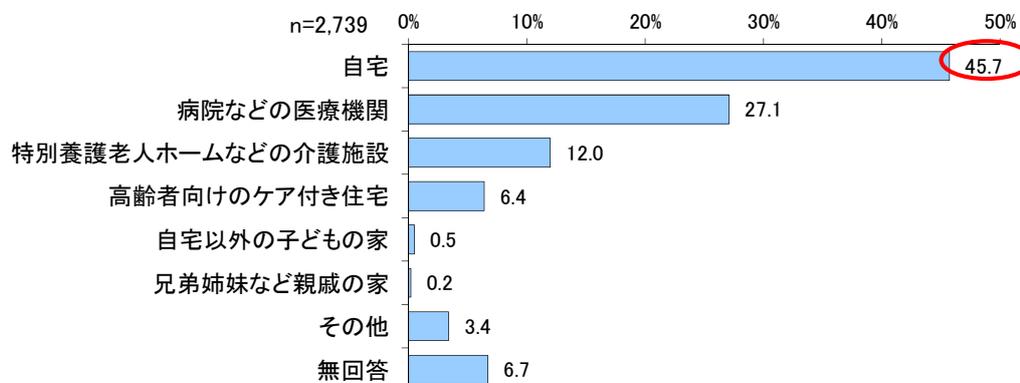
【介護が必要になった場合の希望】



(3) 人生の最期を迎えたい場所

- 人生の最期を迎えたい場所について、「自宅」と回答した人の割合が最も高く、45.7%となっている。

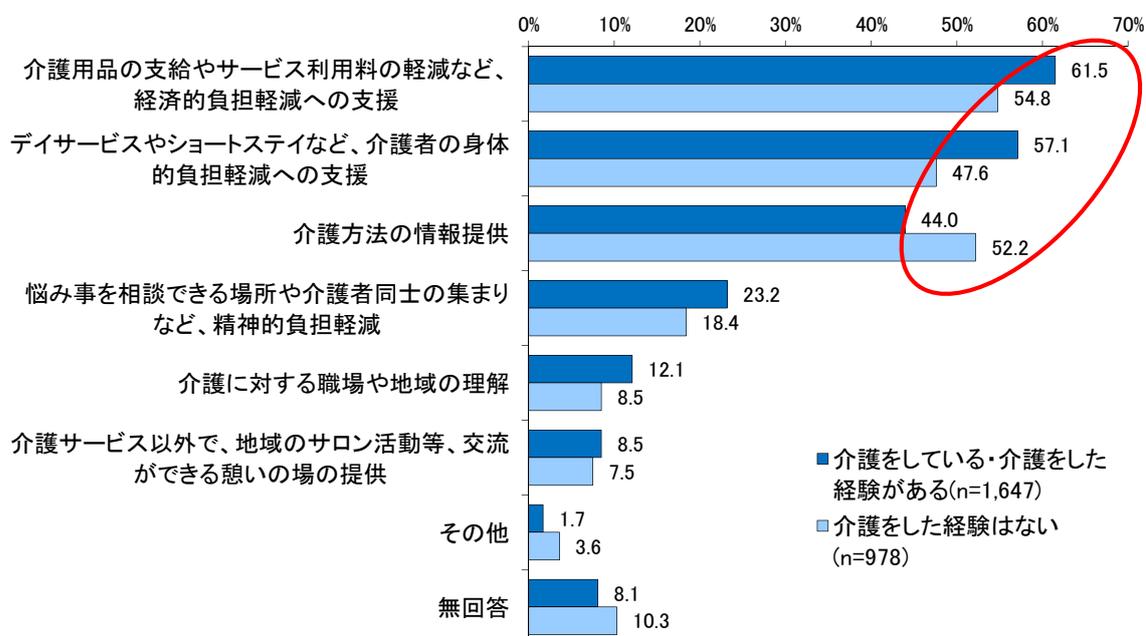
【人生の最期を迎えたい場所】



(4) 在宅で家族を介護するために必要な支援

- 在宅で家族を介護するために必要な支援として、介護の経験がある人、ない人ともに「介護用品の支給やサービス利用料の軽減など、経済的負担軽減への支援」、「デイサービスやショートステイなど、介護者の身体的負担軽減への支援」、「介護方法の情報提供」を挙げる割合が上位となっている。

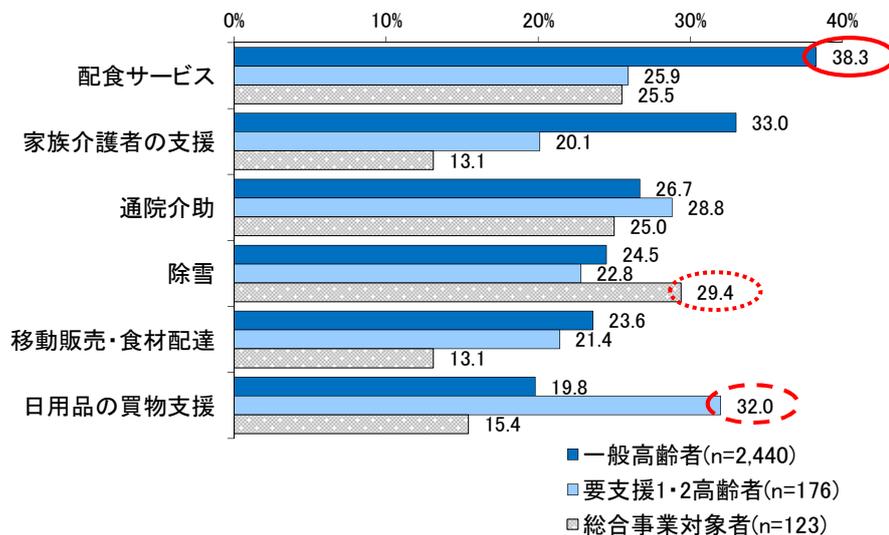
【在宅で家族を介護するために必要な支援（対象者区分別）】



(5) 在宅生活を続けるうえで利用したい生活支援

- ▶ 在宅生活を続けるうえで利用したい生活支援として、一般高齢者では「配食サービス」、要支援1・2高齢者では「日用品の買物支援」、総合事業対象者では「除雪」が最も高くなっている。

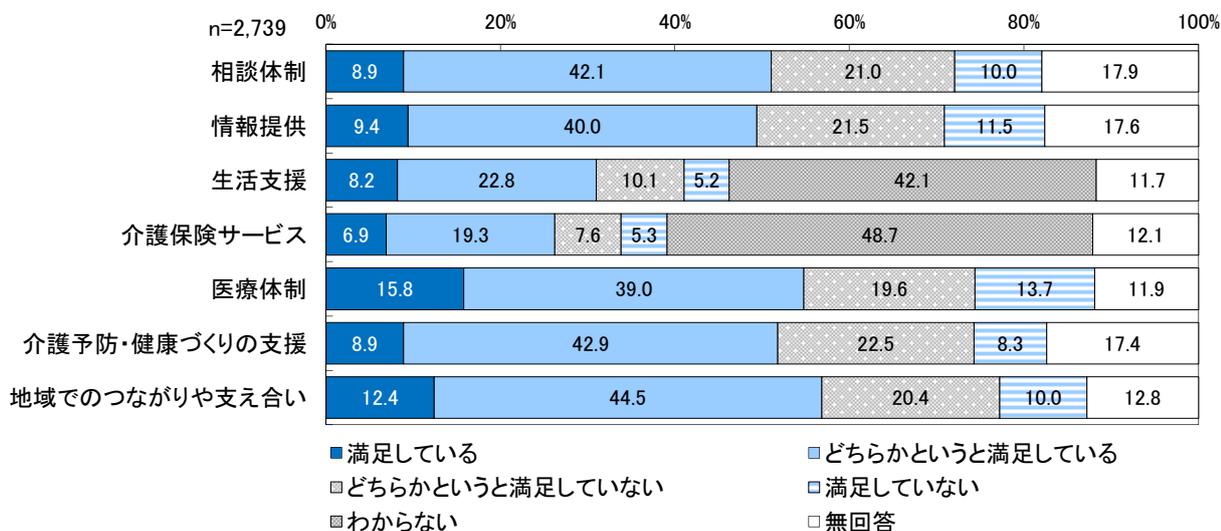
【在宅生活を続けるうえで利用したい生活支援（対象者区分別）】



(6) 自宅での生活を安心して継続できる地域への評価

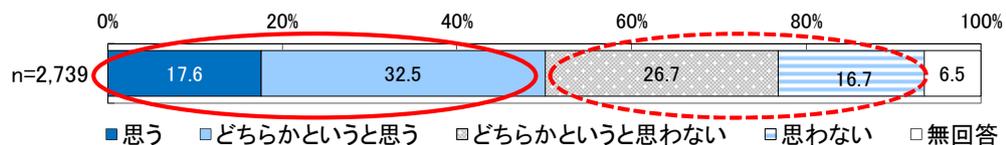
- ▶ 各支援体制の満足度について、『満足している』（「満足している」＋「どちらか」というと満足している）と回答した人の割合は、相談体制が51.0%、情報提供体制が49.4%、生活支援が26.2%、介護保険サービスが33.0%、医療体制が54.8%、介護予防・健康づくりの支援が51.8%、地域でのつながりや支え合いが56.9%となっている。

【各支援体制の満足度】

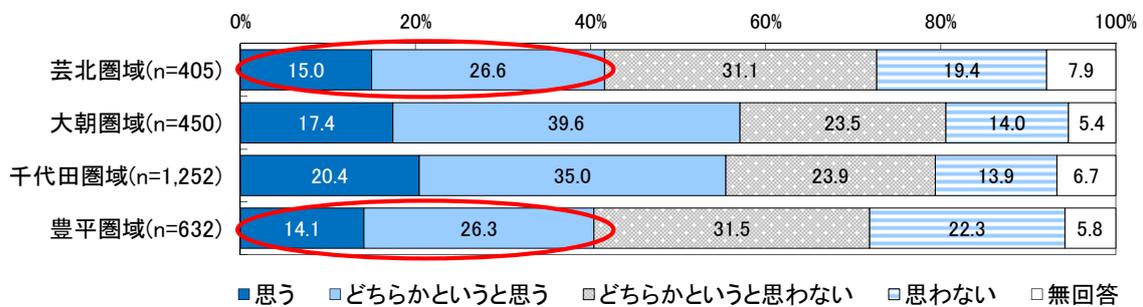


- 自宅での生活を安心して継続できる地域だと『思う』（「思う」＋「どちらかというと思う」）と回答した人の割合が 50.1%、『思わない』（「思わない」＋「どちらかというと思わない」）と回答した人の割合が 43.4%となっている。
- 日常生活圏域別にみると、『思う』と回答した人の割合は、芸北圏域、豊平圏域で低くなっている。

【自宅での生活を安心して継続できる地域への評価】

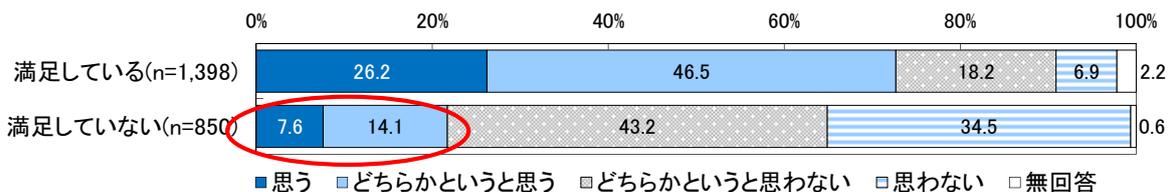


【自宅での生活を安心して継続できる地域への評価（日常生活圏域別）】

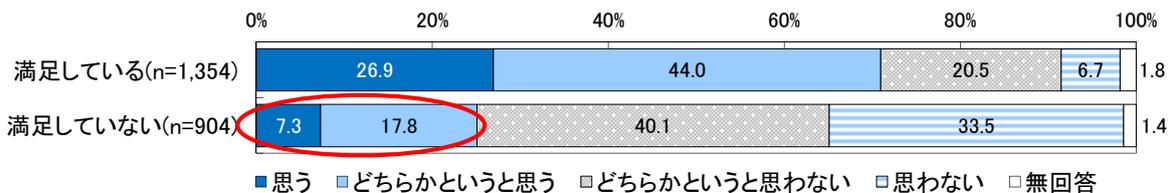


- 各支援体制に満足していない層では、自宅での生活を安心して継続できる地域だと『思う』と回答した人の割合が低くなっている。

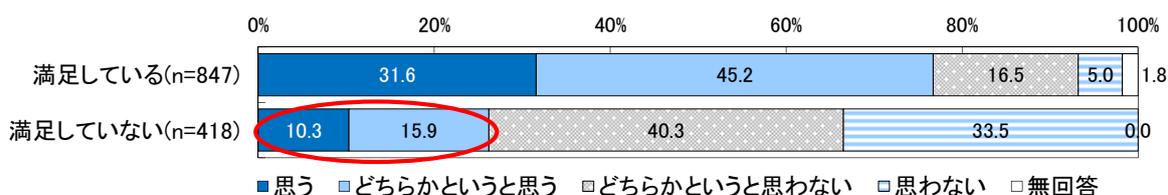
【自宅での生活を安心して継続できる地域への評価（相談体制の満足度別）】



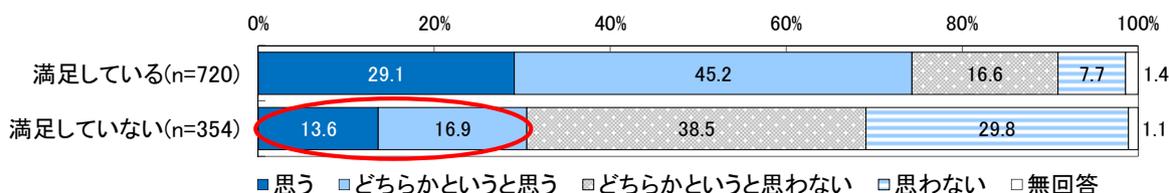
【自宅での生活を安心して継続できる地域への評価（情報提供の満足度別）】



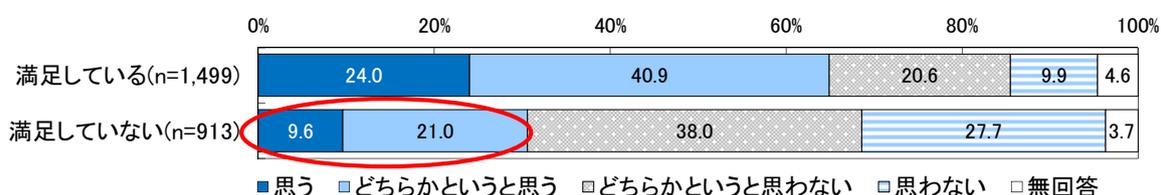
【自宅での生活を安心して継続できる地域への評価（生活支援の満足度別）】



【自宅での生活を安心して継続できる地域への評価（介護保険サービスの満足度）】



【自宅での生活を安心して継続できる地域への評価（医療体制の満足度別）】



[検討すべき課題]

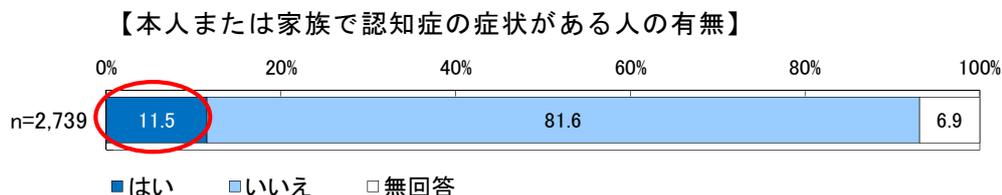
多くの高齢者が、介護が必要になっても在宅での暮らしの継続を望んでいるが、家族に対しての負担がある場合は高齢者向け住宅での暮らしを望んでおり、住み慣れた地域や自宅でいつまでも安心して暮らせる環境づくりが重要である。

また、安心して自宅での生活を継続することができる地域だと評価する割合は、相談や情報提供、介護保険サービス等の各支援に満足していない層で低くなっていることから、今後も地域包括ケア体制を更に推進していくことが重要である。

4 認知症へ対応

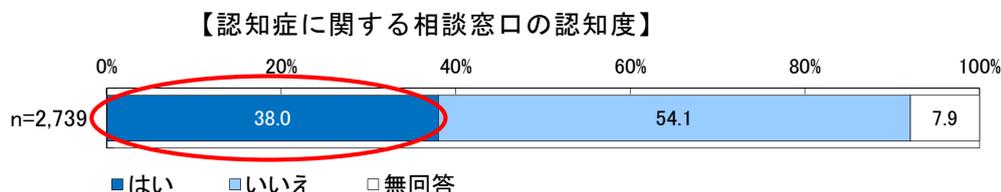
(1) 本人または家族に認知症の症状がある人

- 本人または家族に認知症の症状がある人の割合は 11.5% となっている。

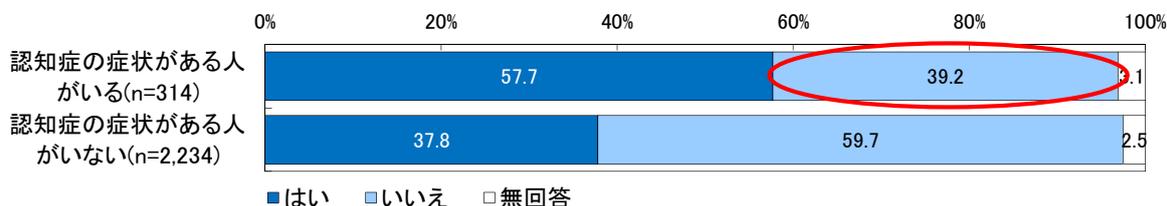


(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

- 認知症に関する相談窓口を知っている人の割合は 38.0% であり、本人または家族に認知症の症状がある人においても知らないと回答した人の割合が 4 割に近くなっている。

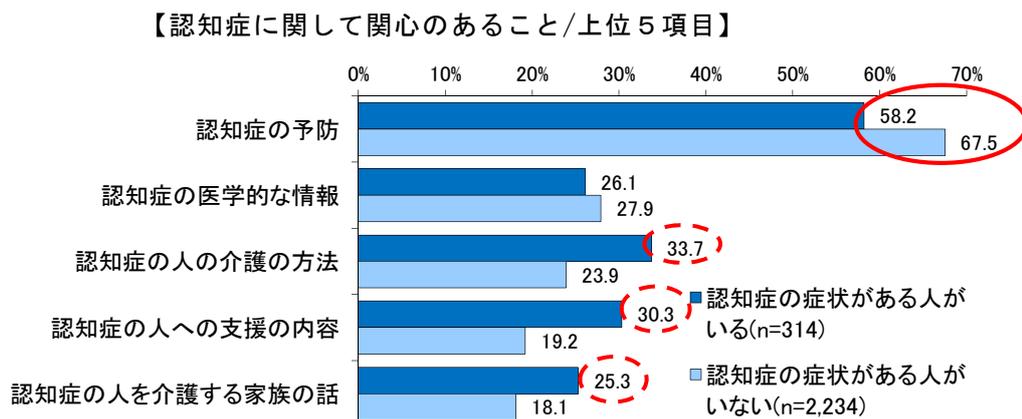


【認知症に関する相談窓口の認知度（自分や家族に認知症の症状がある人の有無別）】



(3) 認知症について関心があること

- 認知症に関して関心のあることについて、自分や家族に認知症の症状がある人、ない人ともに「認知症の予防」の割合が最も高くなっているが、ある人では、「認知症の人の介護の方法」、「認知症の人への支援の内容」、「認知症の人を介護する家族の話」の割合がない人よりも高くなっている。



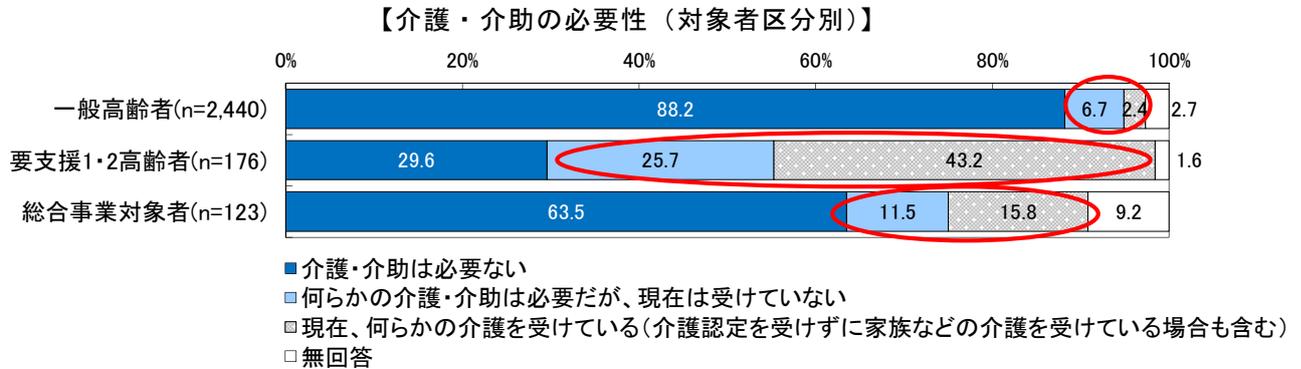
[検討すべき課題]

認知症の症状が自分や家族にある人においても、認知症に関する相談窓口を知らない状況があったため、第6期計画より取り組んできた認知症施策の進捗を踏まえ、取組の充実を図るとともに、認知症に関する支援等の情報を確実に周知することが重要である。

5 介護予防

(1) 介護の必要性と要因

- 普段の生活で介護・介助の必要がある人は、要支援1・2高齢者では68.9%、総合事業対象者では27.3%であり、一般高齢者においても9.1%となっている。



(2) 運動器機能の低下

■ 運動器機能が低下している人

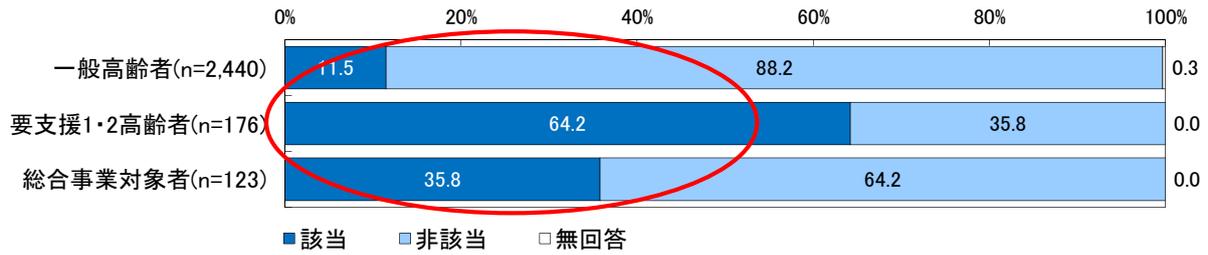
問2-1～問2-5で下表の選択肢を3問以上回答した人が、運動器機能が低下している人に該当する。

設問	該当選択肢
問2-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか	3 できない
問2-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか	3 できない
問2-3 15分位続けて歩いているか	3 できない
問2-4 過去1年間に転んだ経験があるか	1 何度もある 2 1度ある
問2-5 転倒に対する不安は大きい	1 とても不安である 2 やや不安である

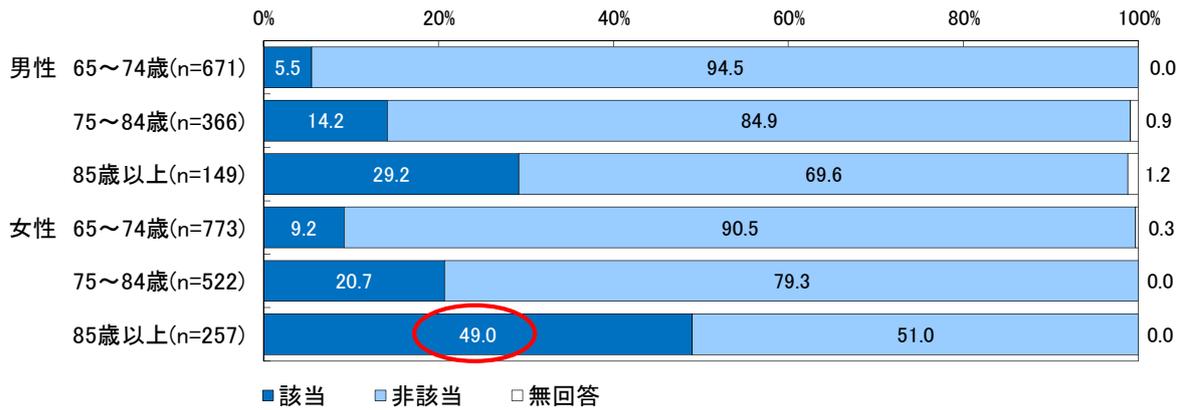
- 運動器機能が低下している人の割合は、全体で16.0%、一般高齢者で11.5%、要支援1・2高齢者で64.2%、総合事業対象者で35.8%であり、特に女性85歳以上で5割近くと高くなっている。



【運動器機能の低下（対象者区分別）】

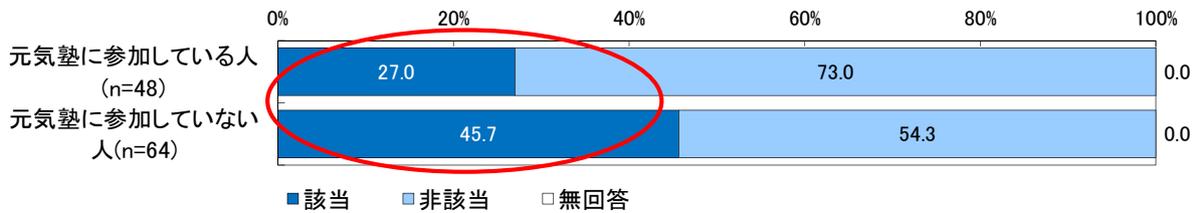


【運動器機能の低下（性・年齢別）】



- 運動器機能が低下している人の割合は、総合事業対象者のうち、元気塾に参加している人は、参加していない人よりも低くなっている。

【運動器機能の低下（総合事業対象者/元気塾参加の有無別）】



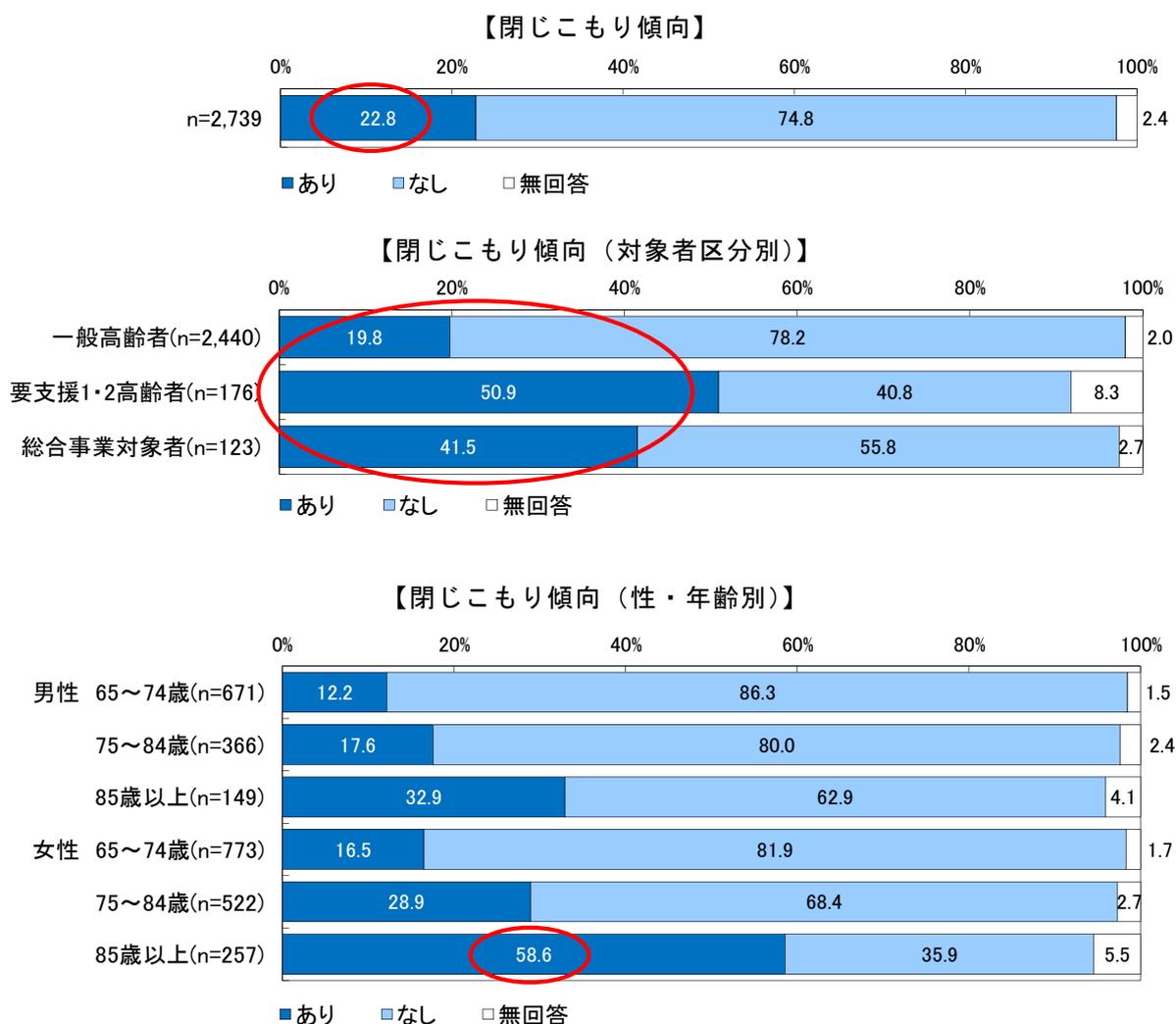
(3) 閉じこもり傾向

■閉じこもり傾向がある人

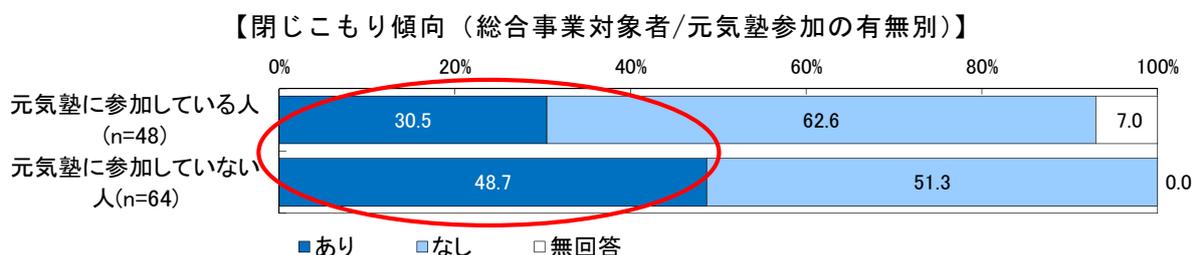
問2-6で下表の選択肢を回答した人が、閉じこもり傾向がある人に該当する。

設問	該当選択肢
問2-6 週に1回以上は外出しているか	1 ほとんど外出しない 2 週1回

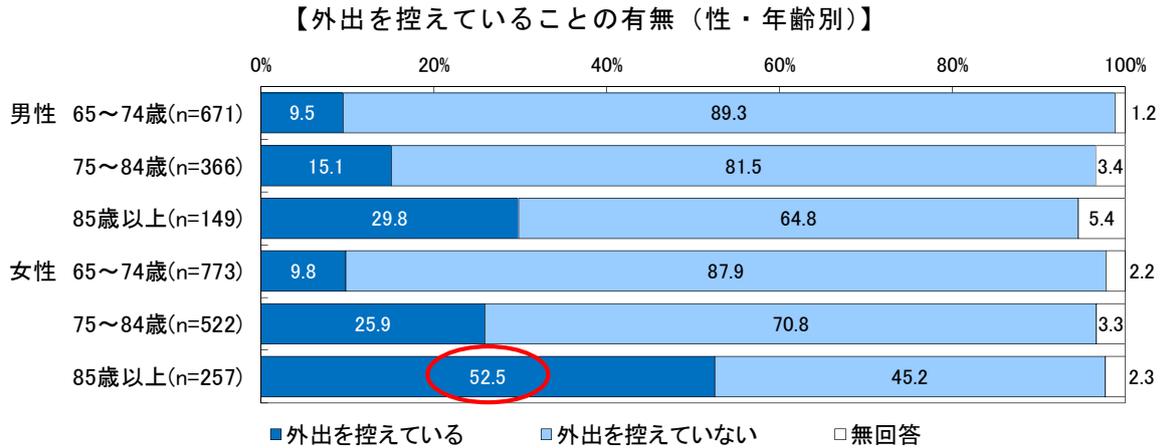
- 閉じこもり傾向がある人の割合は、全体で22.8%、一般高齢者で19.8%、要支援1・2高齢者で50.9%、総合事業対象者で41.5%であり、特に女性85歳以上で6割近くと高くなっている。



- 閉じこもり傾向がある人の割合は、総合事業対象者のうち、元気塾に参加している人は、参加していない人よりも低くなっている。



- 外出を控えている人の割合は、女性 85 歳以上で高くなっている。



- 外出を控えている理由は、いずれの年齢層でも「足腰などの痛み」の割合が最も高く、女性 85 歳以上では 63.1% となっている。
- 外出を控えている理由として、一般高齢者では、男性 85 歳以上、女性 75～84 歳、女性 85 歳以上で「交通手段がない」を挙げる割合が高くなっている。

【外出を控えている理由（性・年齢別）/上位 8 項目】

	回答数	足腰などの痛み	交通手段がない	病気	トイレの心配(尿もれ、失禁など)	外での楽しみがない	経済的に出られない	耳の障害(聞こえの問題など)	目の障害
男性 65～74歳	64	29.6%	5.9%	17.8%	-	12.3%	24.2%	8.7%	6.2%
75～84歳	55	37.9%	4.3%	22.6%	17.8%	20.3%	14.9%	15.2%	8.3%
85歳以上	45	33.6%	37.2%	12.0%	30.6%	18.1%	8.9%	43.1%	13.9%
女性 65～74歳	76	36.6%	12.6%	11.6%	21.2%	19.9%	26.2%	2.5%	-
75～84歳	135	47.6%	23.2%	18.4%	17.3%	11.8%	7.7%	9.7%	5.5%
85歳以上	135	63.1%	20.9%	17.8%	10.5%	12.8%	7.7%	9.2%	9.2%

(4) うつ

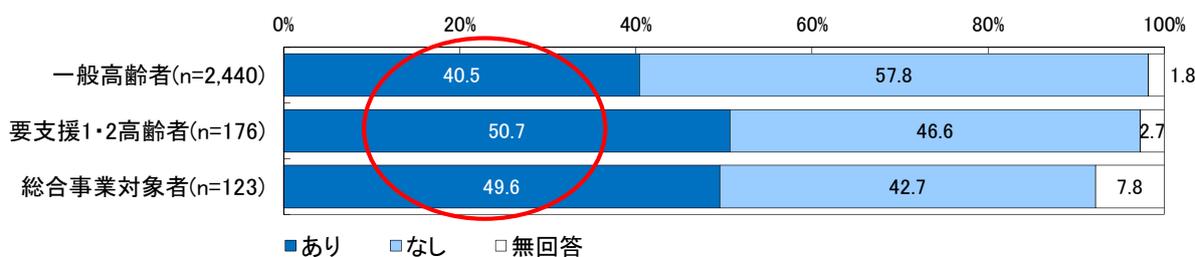
■うつの傾向がある人

問7-3、問7-4で下表のいずれかの選択肢を回答した人が、うつの傾向がある人に該当する。

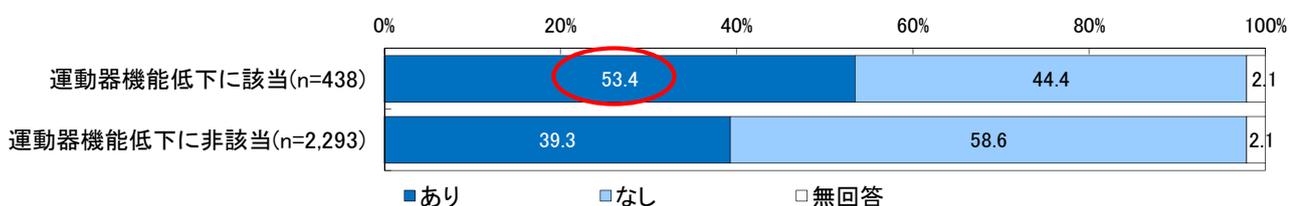
設問		該当選択肢
問7-3	1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあるか	1 はい
問7-4	1か月間に物事に興味がわかない、心から楽しめない感じがよくあったか	1 はい

- ▶ うつの傾向がある人の割合は、一般高齢者で40.5%、要支援1・2高齢者で50.7%、総合事業対象者で49.6%となっている。
- ▶ うつの傾向がある人の割合は、運動器機能低下に該当する人で高くなっている。

【うつの傾向（対象者区分別）】



【うつの傾向（運動器機能低下のリスクの有無別）】



[検討すべき課題]

多くの高齢者が、運動器機能の低下に該当しており、運動器機能の低下は閉じこもりの傾向やうつの傾向にも関わりがあり、運動器機能が低下していることが理由で外出を控え、閉じこもりがちになり、さらに機能が低下する悪循環になる状況も懸念される。

地域における様々な活動に参加することで、運動器機能の低下を防ぐ活動の充実とともに、活動へ参加しやすい地域の環境づくりが重要である。

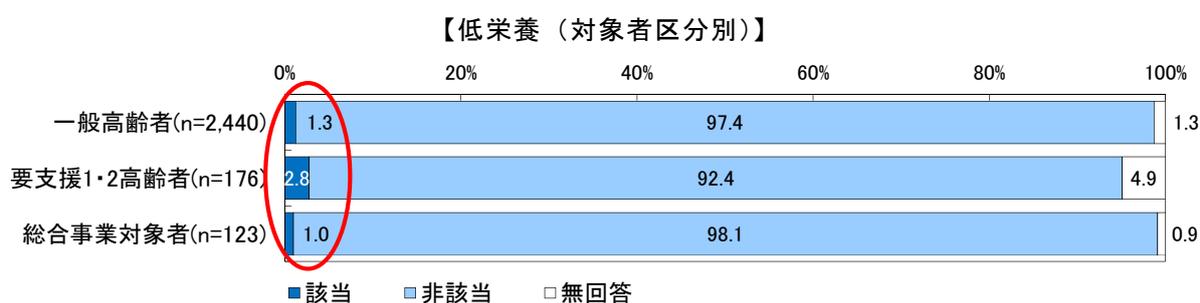
(5) 栄養・食事

■低栄養が疑われる人

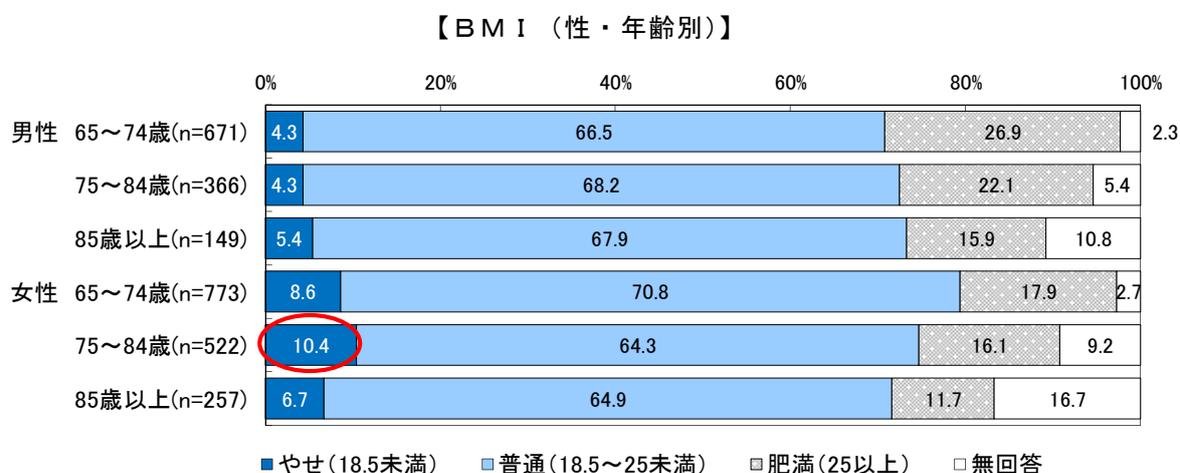
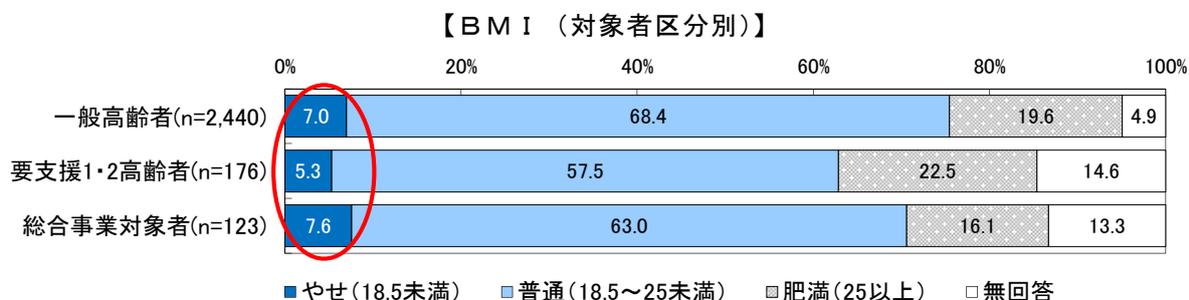
BMIが18.5未満、問3-6で下表の選択肢を回答した人が、低栄養が疑われる人に該当する。

設問		該当選択肢
問3-1	BMI	18.5未満
問3-6	6か月間で2~3kg以上の体重減少があったか	1 はい

- 低栄養が疑われる人の割合は、一般高齢者で1.3%、要支援1・2高齢者で2.8%、総合事業対象者で1.0%となっている。

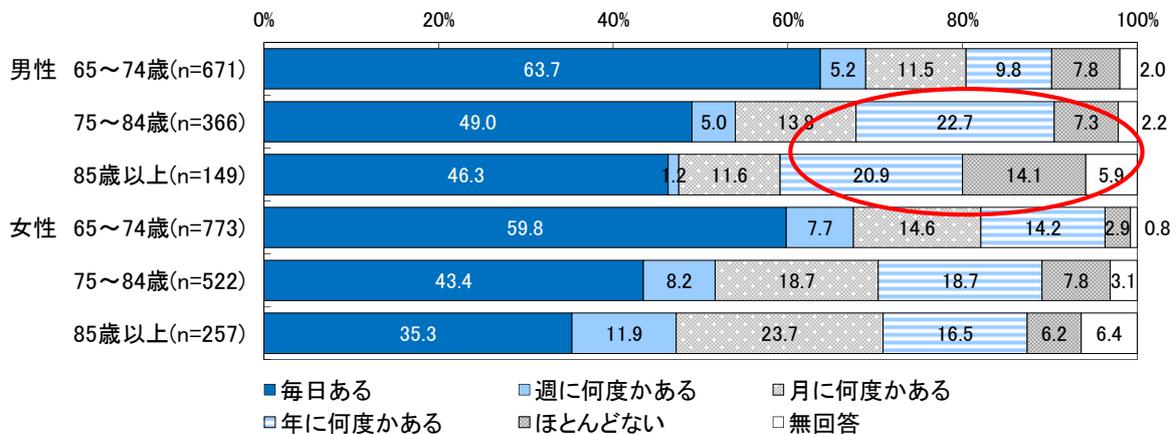


- BMI 18.5未満の人の割合は、いずれの区分でも1割未満であるが、女性75~84歳で1割を超えている。



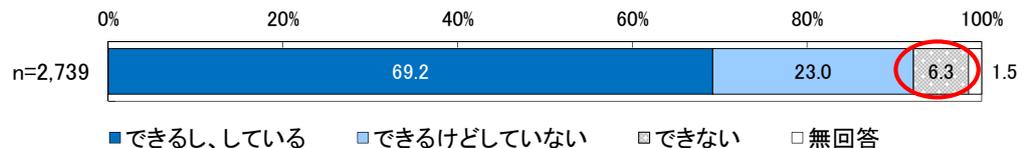
- 他の人と食事をする頻度が少ない（年に数回以下）人の割合は、男性 75～84 歳で 30.0%、男性 85 歳以上で 35.0%となっている。

【誰かと食事をとる機会の有無（性・年齢別）】



- 自分で食事の用意を「できない」と回答した人の割合は、全体で 6.3%となっている。

【食事の用意の状況】



(6) 歯と口の健康

■ 口腔機能が低下している人

問 3-2 ～ 問 3-4 で下表の選択肢を 2 問以上回答した人が、口腔機能が低下している人に該当する。

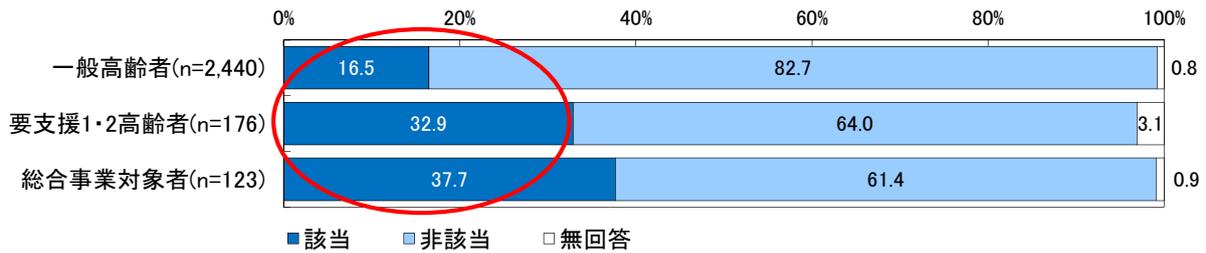
設問	該当選択肢
問 3-2 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	1 はい
問 3-3 お茶や汁物等でむせることがあるか	1 はい
問 3-4 口の渇きが気になるか	1 はい

- 口腔機能が低下している人の割合は、全体で 18.5%、一般高齢者で 16.5%、要支援 1・2 高齢者で 32.9%、総合事業対象者で 37.7%であり、女性 85 歳以上で 3 割となっている。

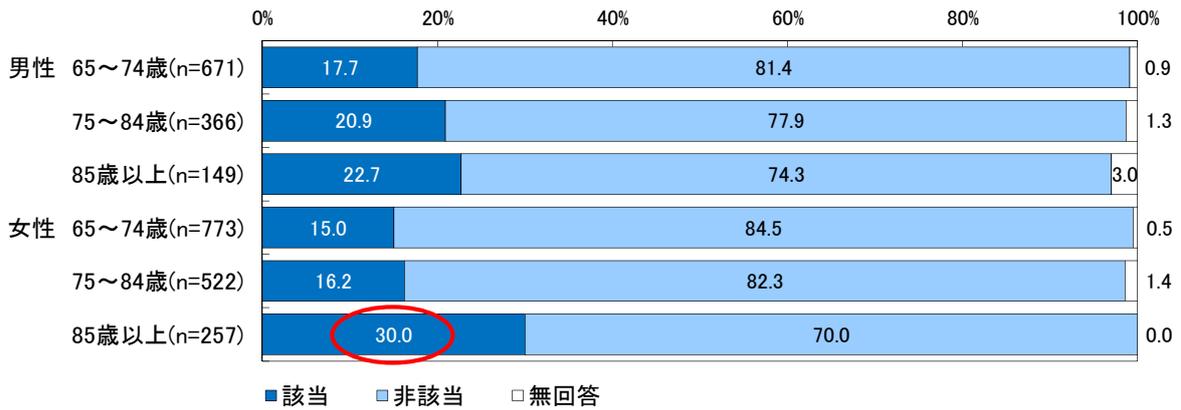
【口腔機能の低下】



【口腔機能の低下（対象者区分別）】

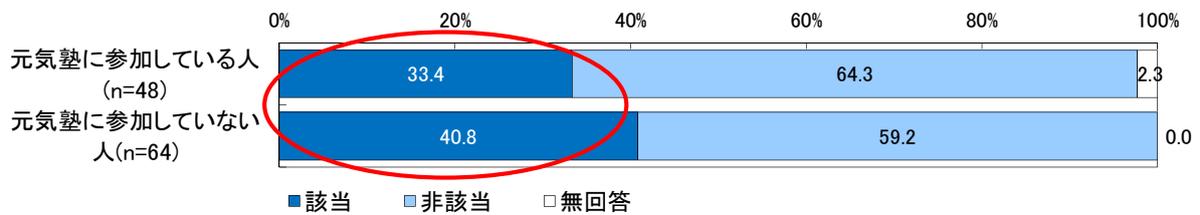


【口腔機能の低下（性・年齢別）】



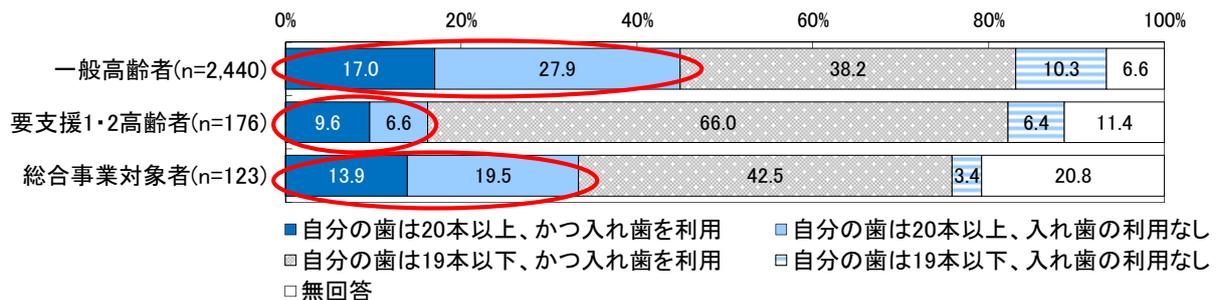
➤ 口腔機能が低下している人の割合は、総合事業対象者のうち、元気塾に参加している人は、参加していない人よりも低くなっている。

【口腔機能の低下（総合事業対象者/元気塾参加の有無別）】



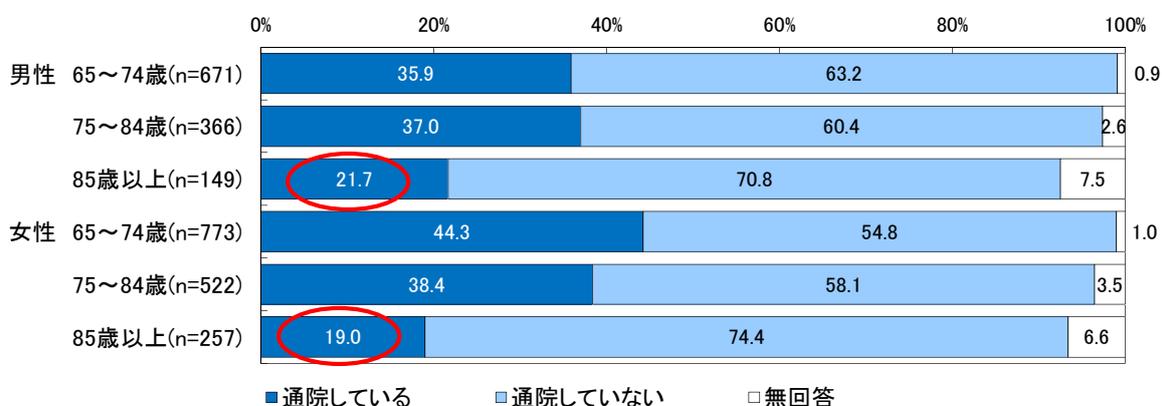
➤ 自分の歯が20本以上ある高齢者は、一般高齢者で44.9%、要支援1・2高齢者で16.2%、総合事業対象者で33.4%となっている。

【歯の数と入れ歯の利用状況（対象者区分別）】



- ▶ 歯科医院への定期的な通院をしている割合は、男女ともに 85 歳以上で低く、2 割前後となっている。

【歯科医院への定期的な通院の有無（性・年齢別）】



[検討すべき課題]

低栄養が疑われる人の割合は1割に満たないが、低栄養はフレイルの要因になっているため、食事や栄養に関する正しい知識を周知するとともに、配食等による栄養バランスのよい食事の摂取や、地域で楽しく食事をする機会の設定など、様々な面から働きかけを行うことが重要である。

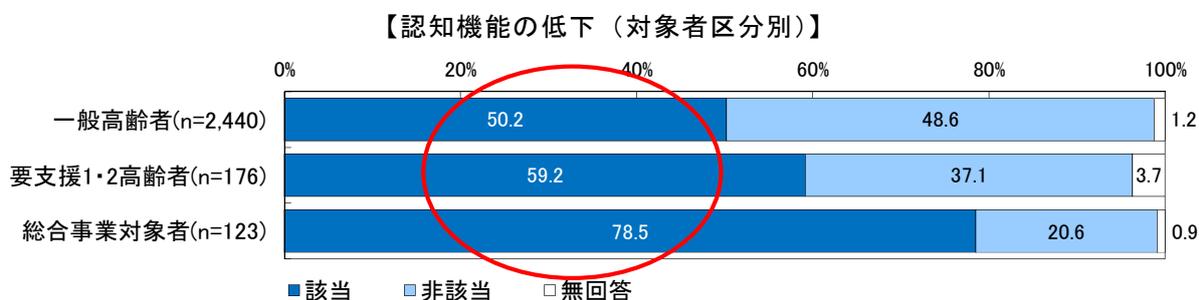
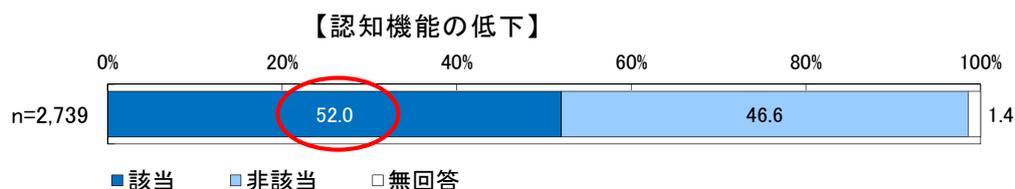
口腔機能が低下している人は多くおり、口腔機能を維持・改善することは、身体全体の健康やコミュニケーションのための機能にもつながることから、オーラルフレイルについての正しい知識を広く周知するとともに、歯と口腔の正しいケアや嚥下機能を維持・向上するための取組が重要である。

(7) 認知症

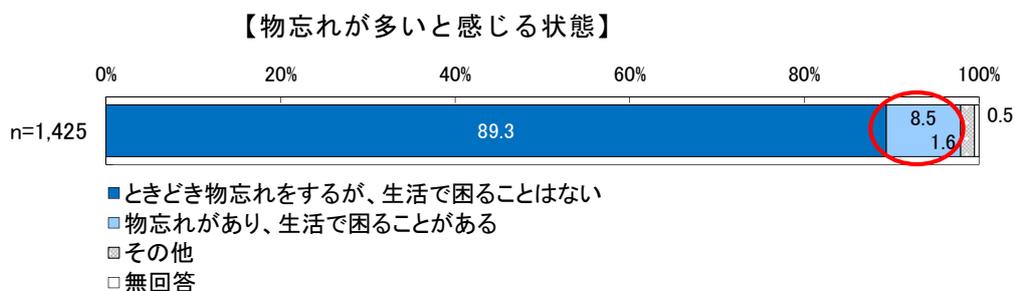
問 4-1 で下表の選択肢を回答した人が、認知機能が低下している人に該当する。

設問		該当選択肢
問 4-1	物忘れが多いと感じるか	1 はい

- 認知機能が低下している人の割合は、全体で 52.0%、一般高齢者で 50.2%、要支援 1・2 高齢者で 59.2%、総合事業対象者で 78.5%となっている。

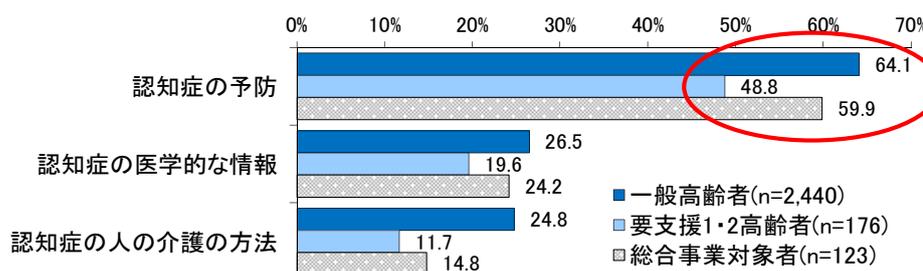


- 物忘れが多いと感じる人のうち、「物忘れがあり、生活で困ることがある」と回答した人の割合が 8.5%となっている。



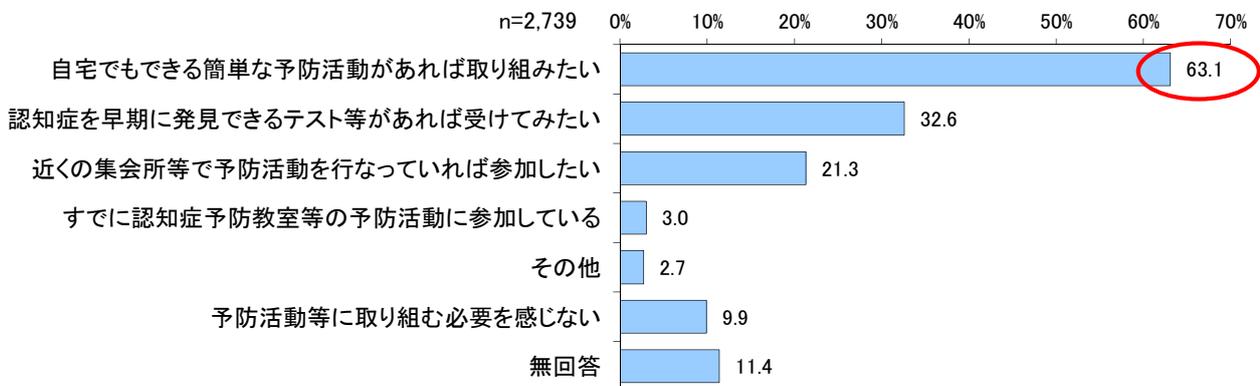
- 認知症について関心があることとして、「認知症の予防」を挙げる人の割合がいずれの区分においても高く、一般高齢者では 64.1%となっている。

【認知症に関して関心のあること（対象者区分別）/上位3項目】



- 認知症の予防について、「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」と回答した人の割合が 63.1%と最も高く、取り組む必要性を感じない人、無回答の人を除くと、約 8 割が何らかの取組を回答している。

【認知症の予防に対する考え】



[検討すべき課題]

認知機能が低下している一般高齢者は約 5 割であり、要支援 1・2 高齢者や後期高齢者ではさらに高く、そのうち「物忘れがあり、生活で困ることがある」人も 8.5%いる。

また、認知症に関心がある人が多くいることから、予防や悪化防止の取組が重要である。

6 健康

(1) 主観的健康感

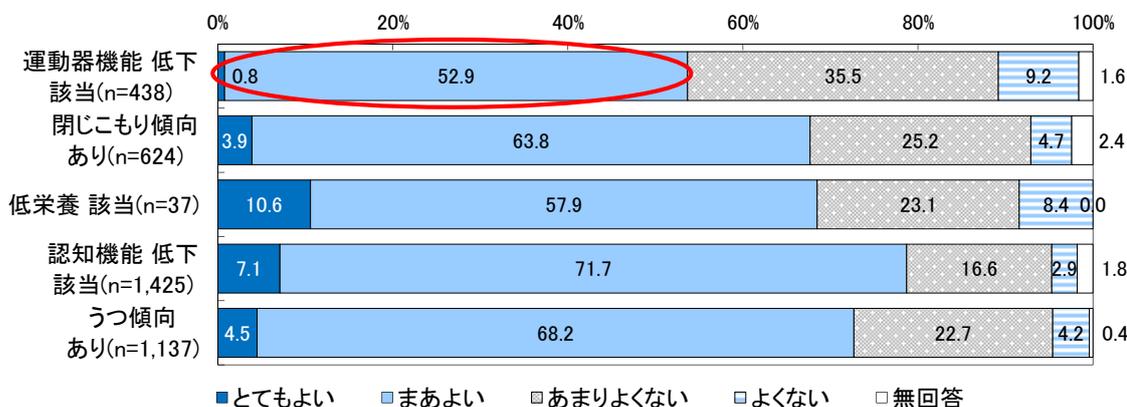
- 健康状態がよい（「とてもよい」+「まあよい」）と回答した人の割合は82.2%となっている。

【現在の健康状態（前回調査結果との比較）】



- 運動器機能が低下している人は、健康状態がよいと回答した人の割合が53.7%と低くなっている。

【現在の健康状態（リスクの種別）】



- 月1回以上地域活動へ参加している人は、健康状態がよいと回答した人が86.5%となっている。

【現在の健康状態（地域活動への参加状況別）】



- 生きがいがある人は、健康状態がよいと回答した人が85.3%となっている。

【現在の健康状態（生きがいの有無別）】



(2) 現在治療中、後遺症のある病気

- 現在治療中または後遺症のある病気は、いずれの年齢層でも「高血圧」の割合が最も高くなっている。
- 男性 75～84 歳、男性 85 歳以上で「糖尿病」の割合が約 2 割となっている。
- 「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の割合は、女性 75～84 歳で 21.8%、女性 85 歳以上で 29.5%となっている。

【現在治療中または後遺症のある病気（性・年齢別）/上位 10 項目】

	回答数	高血圧	目の病気	糖尿病	筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	高脂血症(脂質異常)	心臓病	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	耳の病気
男性 65～74歳	671	38.1%	9.6%	12.6%	1.8%	13.5%	12.2%	6.0%	8.4%	4.6%	3.2%
75～84歳	366	41.3%	24.9%	20.1%	5.1%	3.7%	12.9%	9.0%	17.6%	8.6%	5.3%
85歳以上	149	38.2%	20.8%	20.5%	4.2%	6.8%	11.6%	17.1%	16.3%	11.2%	11.4%
女性 65～74歳	773	33.3%	16.2%	13.7%	15.7%	17.6%	3.4%	5.4%	1.5%	2.7%	1.8%
75～84歳	522	43.6%	24.3%	13.5%	21.8%	12.2%	9.3%	6.3%	0.9%	5.1%	7.1%
85歳以上	257	40.0%	19.6%	4.4%	29.5%	7.2%	8.3%	8.4%	1.6%	4.0%	10.1%

[検討すべき課題]

現在治療中、または後遺症のある病気を回答した人は、「ない」と回答した人と無回答の人を除くと 7 割以上となっているが、8 割を超える人が健康状態がよいと回答している。

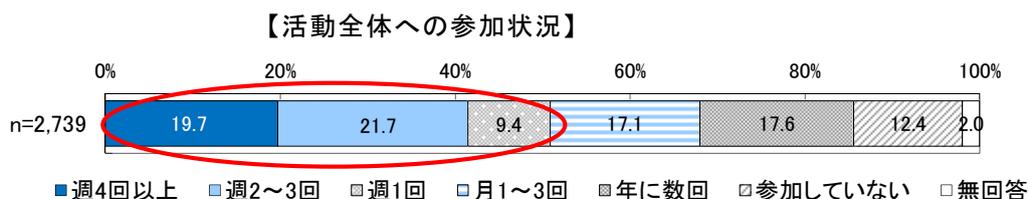
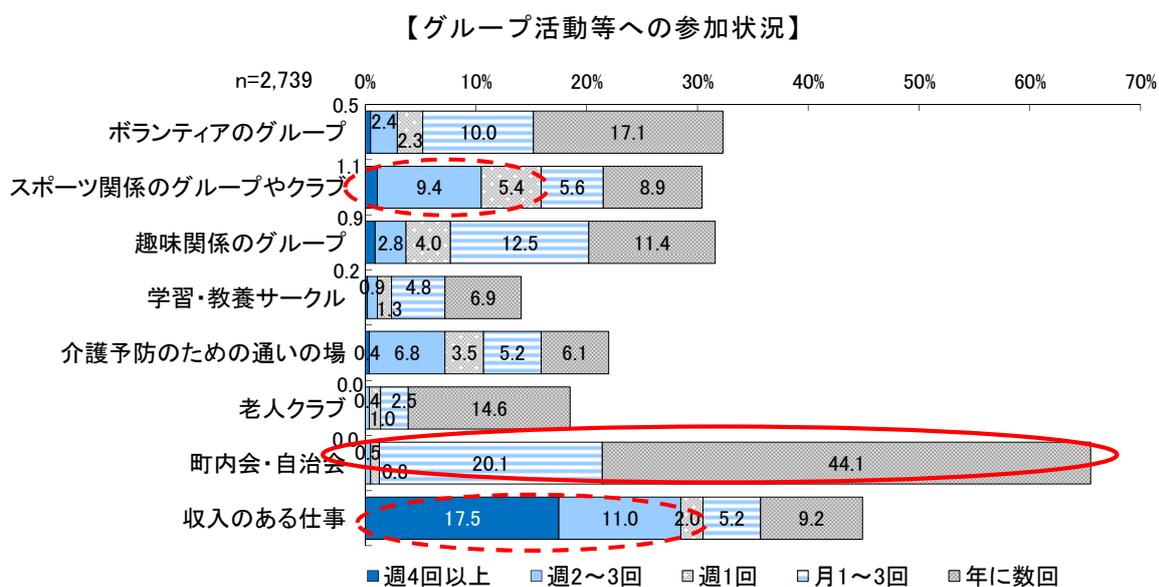
現在治療中、または後遺症のある病気として、高血圧が上位に挙がっており、男性では糖尿病も挙がっていることから、若い世代から生活習慣病を予防するための継続した取組が重要である。

また、女性では筋骨格の病気の割合が高く、運動器機能が低下している人は健康状態がよいと回答する割合が低いことから、運動器機能を向上させるための介護予防の取組が重要である。

7 地域活動への参加・参画

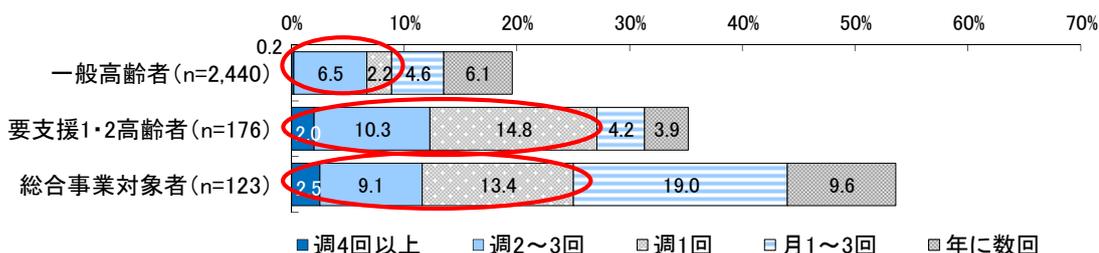
(1) 地域での活動への参加状況

- ▶ 年に数回以上参加している割合が高い活動は、「町内会・自治会」が最も高く65.5%、次いで「収入のある仕事」が44.9%となっている。
- ▶ 週1回以上参加している割合が高い活動は、「収入のある仕事」が最も高く30.5%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が15.9%となっている。
- ▶ 活動全体では、週1回以上参加している割合が50.8%であり、年に数回しか参加していない人の割合が17.6%、いずれの活動にも参加していない人の割合が12.4%となっている。



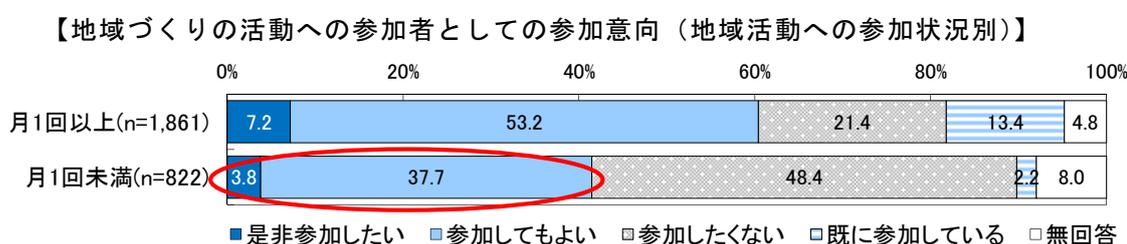
- ▶ 介護予防のための通いの場に週1回以上参加している人の割合は、一般高齢者で8.9%、要支援1・2高齢者で27.1%、総合事業対象者で25.0%となっている。

【介護予防のための通いの場への参加状況（対象者区分別）】

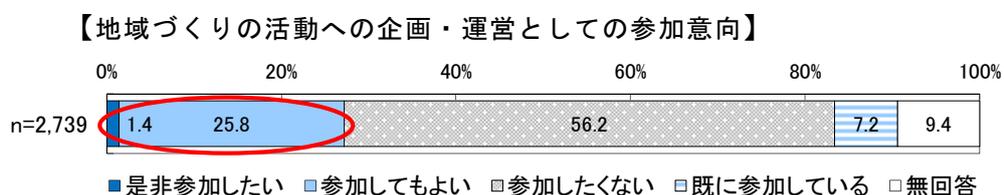


(2) 今後の参加意向

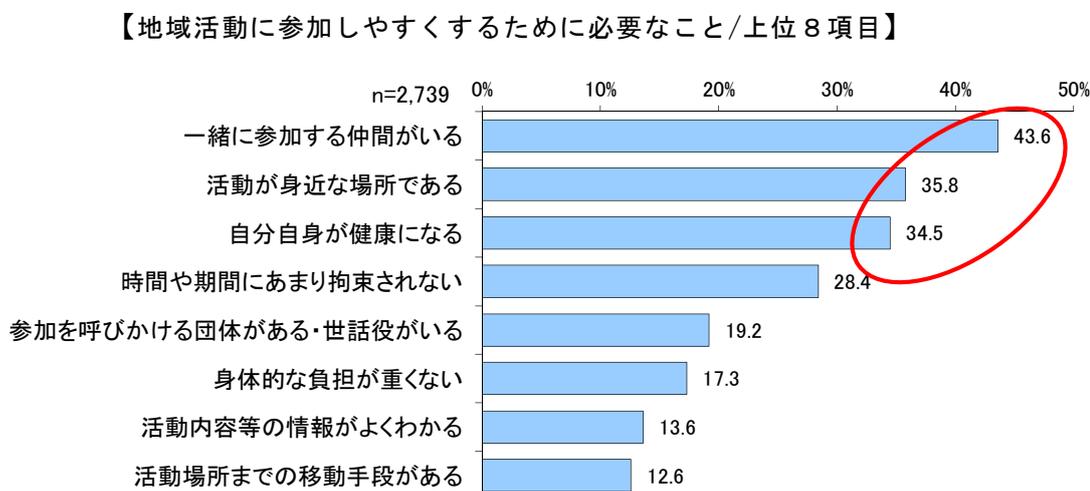
- 地域住民の有志による健康づくり活動や趣味グループの活動に参加者として参加意向がある（「是非参加したい」+「参加してもよい」）人の割合は54.3%となっている。
- 地域活動への参加状況が月1回未満の参加頻度が低い人においても、参加意向がある人の割合が4割を超えている。



- 企画・運営としての参加意向がある人の割合は27.2%となっている。

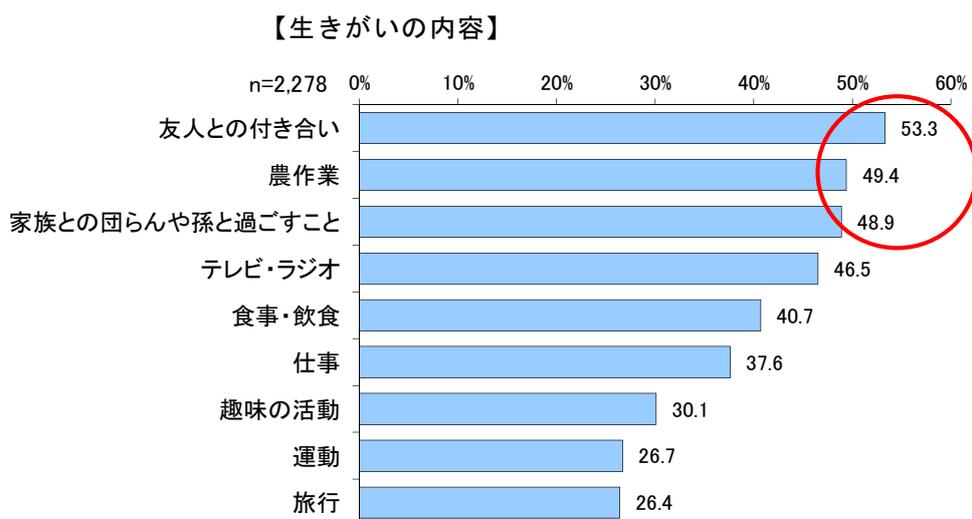


- 地域活動に参加しやすくするために必要なことについて、「一緒に参加する仲間がいる」、「活動が身近な場所である」、「自分自身が健康になる」が上位となっている。



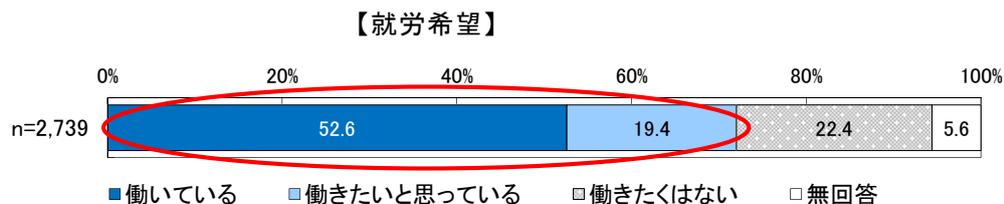
(3) 生きがいについて

- 生きがいがある人は 83.2% であり、生きがいの内容は、「友人とのつきあい」、「農作業」、「家族との団らんや孫と過ごすこと」が上位となっている。



(4) 就労意向

- 就労について、「働いている」人の割合が 52.6%、「働きたいと思っている」人の割合が 19.4% となっている。



[検討すべき課題]

いずれの地域での活動にも参加していない人がいる。

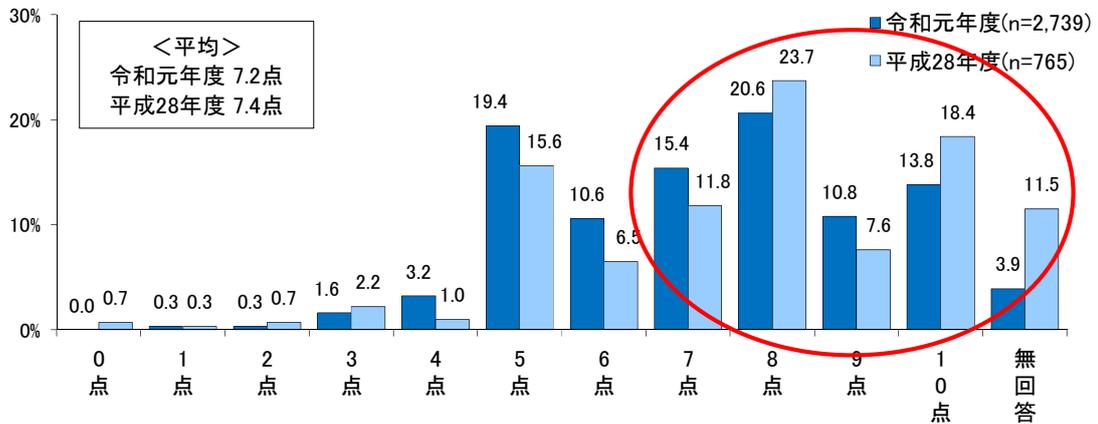
参加頻度が少ない人で自主的な活動への参加意向がある人もいることから、高齢者の楽しみや生きがいにつながるような活動の場の充実を図るとともに、身近な場での活動の実施や参加のきっかけづくり、既存の活動の情報提供など、参加を促す環境づくりが重要である。

また、就労意向がある人がいることから、高齢者の意欲を活かせる就労の場づくりが重要である。

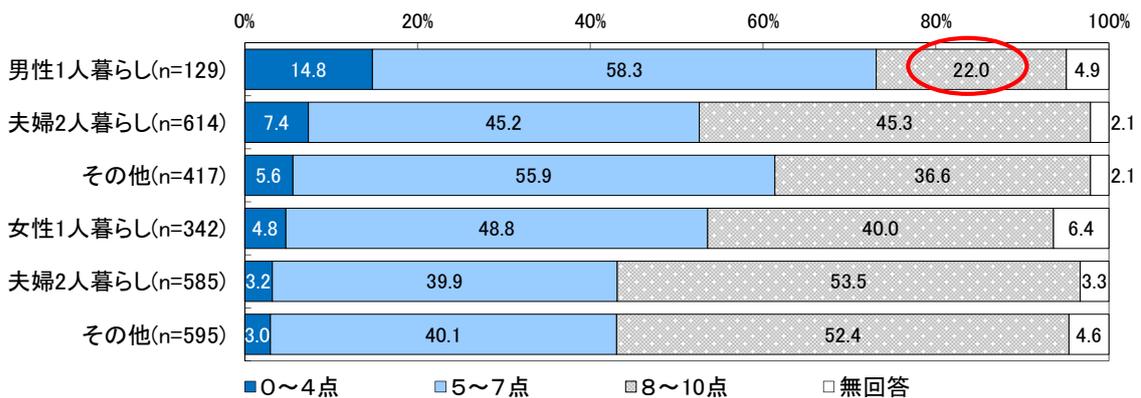
8 幸福度

- 幸福度が8点以上の人の割合は、45.2%となっている。
- 男性1人暮らしでは、幸福度が8点以上の人の割合が低く、22.0%となっている。
- 経済状況にゆとりがあるほど、幸福度が8点以上の人の割合が高くなっている。

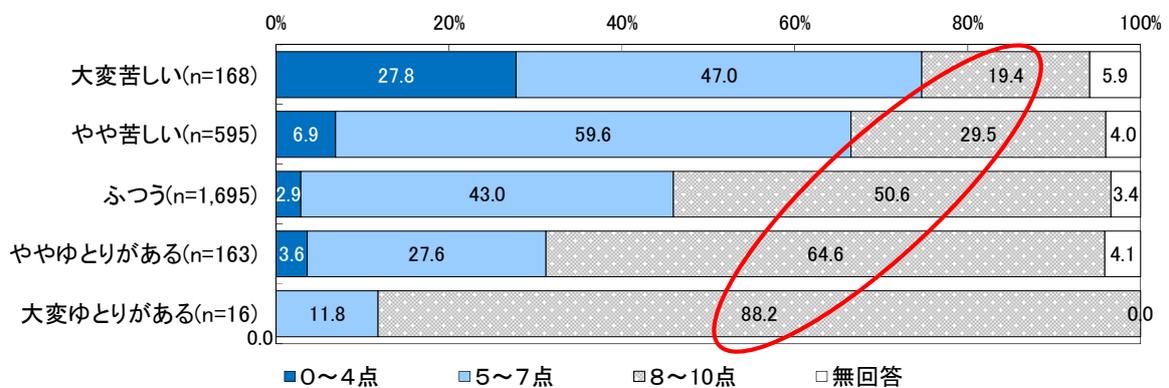
【幸福度（前回調査結果との比較）】



【幸福度（性・家族構成別）】

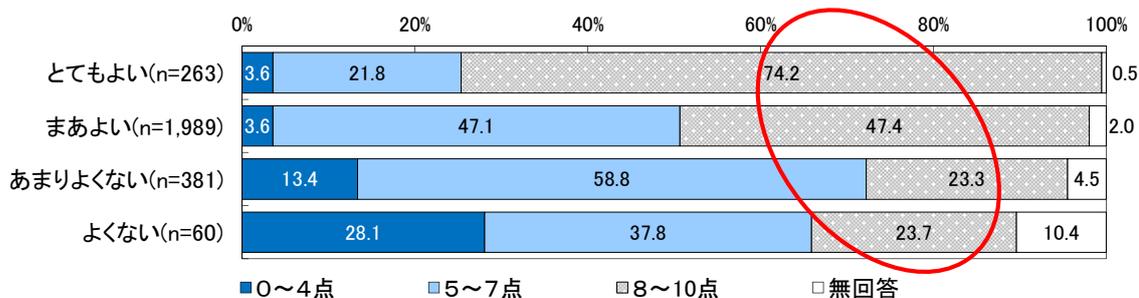


【幸福度（経済状況別）】

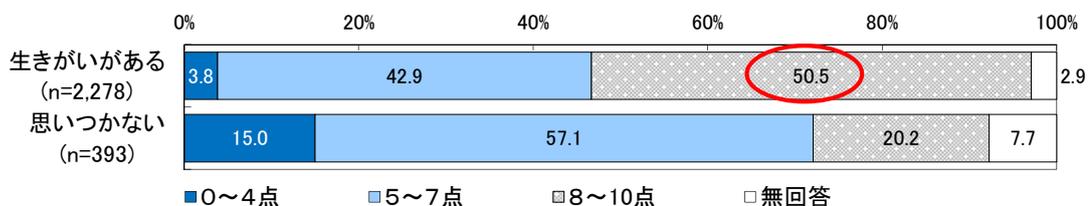


- 健康状態がよい人ほど、幸福度が8点以上の人の割合が高くなっている。
- 生きがいがある層で、幸福度が8点以上の人の割合が高くなっている。
- 友人・知人と会う頻度が多いほど、幸福度が8点以上の人の割合が高くなっている。
- 運動器機能低下に該当する人、閉じこもり傾向がある人、うつ傾向がある人で、幸福度が8点以上の人の割合が低くなっている。

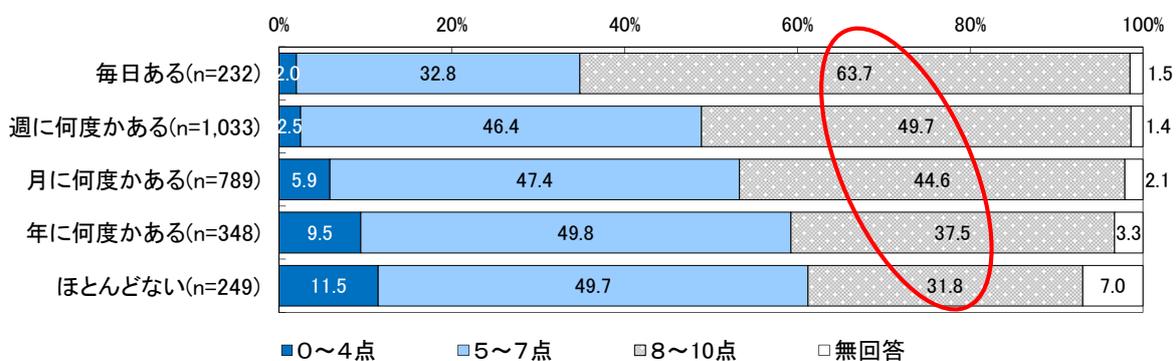
【幸福度（健康感別）】



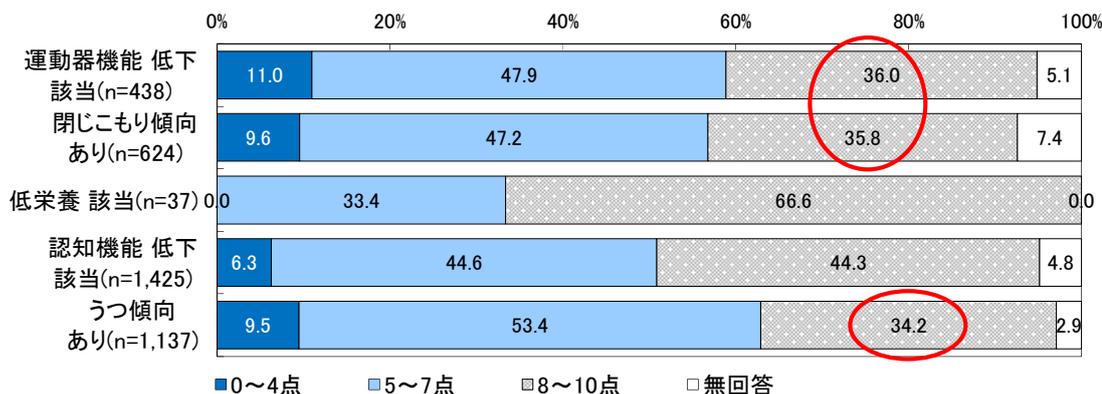
【幸福度（生きがいの有無別）】



【幸福度（友人・知人と会う頻度別）】



【幸福度（介護が必要になるリスク別）】



[検討すべき課題]

幸福度は、健康感や要介護のリスクの有無とともに、人とのつながりや経済状況など、社会的な状況にも関連がある結果となっている。

生きがいや役割をもって参加できる活動の充実等による健康づくりへの支援や日常生活における困難な状況を解決するための支援等、高齢者の個々の状況に応じた支援を、地域や関係機関等と連携して推進することが重要である。